

平成 28 年度 事業報告書

(ホームページのみ掲載分)

13 組織別の活動状況	2
(1) 会議等	2
(2) 委員会の活動	2
(3) 部会の活動	13
(4) 地域本部及び地域本部管轄下の県支部の活動	24
(5) 関東甲信地域の県支部の活動	39

平成 28 年度事業報告書ホームページ掲載 一般事業

13 組織別の活動状況

(1) 会議等

定款に規定する会議を次のとおり開催した。

1) 総会

第 58 回定時総会を 6 月 16 日に開催した。議題は付属明細書を参照。

2) 理事会

理事会を 6 回開催した。議題及び理事会において審議または報告された規程類の制定・変更の内容は付属明細書を参照。

(2) 委員会の活動

(a) 常設委員会

本会の重要施策についての円滑な実施を図ると共に、常設委員会相互の連絡及び調整のため、常設委員長会議を 6 回開催した。会議の開催状況及び審議事項等並びに各常設委員会等の開催状況は付属明細書を参照。

1) 倫理委員会

「綱領小委員会」、「啓発小委員会」、及び「情報小委員会」の 3 小委員会、並びに「倫理教育検討ワーキンググループ」により活動した。

主な活動は、次の通りである。

- ① 倫理綱領について、最近の不祥事例の調査結果を基に、不祥事の主要因と倫理に関わる共通的な事項を抽出し、倫理綱領見直しの要否等の検討を進めている。
- ② シンポジウム「第 8 回企業と技術者の倫理とコンプライアンス『科学技術と社会の関わり』～トランスサイエンスと技術者倫理～」を学士会館で 5 月 17 日に開催し、94 名の参加を得た。
- ③ 第 43 回技術士全国大会（パシフィコ横浜）に併せて、「第 4 回技術者倫理ワークショップ」を 11 月 13 日にワークピア横浜で開催し、全国から 85 名の参加を得た。
- ④ 日本工学教育協会「技術者倫理調査研究委員会」の参加組織として、倫理教育用モジュール型モデル・シラバスの開発に参画すると共に、開発のモジュール型モデル・シラバスを基に、技術士が講師を務める大学・高専等の倫理講座用教材作成に向けて検討を進め、教材の検討・作成の基本的な考え方、教材の構成案（たたき台）を設定した。
- ⑤ 月刊『技術士』に、「技術者倫理啓発活動シリーズ」4 編（平成 28 年 4 月号～同 8 月号）、「新たな技術者倫理教育シリーズ」3 編（平成 28 年 10 月号～平成 29 年 1 月号）、及び実施行事報告（平成 28 年 11 月号、平成 29 年 3 月号）を掲載した。また、平成 29 年度の執筆掲載計画を検討した。
- ⑥ 日本工学会「技術倫理協議会」の参加組織として、2016 年度の第 12 回公開シンポジウム「科学技術と社会をどう結びつけるか」を企画検討、開催に参画した。

2) 総務委員会

平成 27 年度に続き諸制度の検討、規則、諸手引きの制定、改訂、廃止の検討並びに会員による活動グループの管理等を行った。主な内容は次の通り。

- ① 部会長及び部会幹事の選任方法について、部会長候補者を当該部会員の選挙により選定する内容の新たな規則を理事会に付議し、承認された。2年後の役員候補者選出選挙に合わせて実施される。
- ② 平成 28 年度新名誉会員、フェロー、会長表彰者の審査及び推薦を行った。
- ③ 登録期間を 2 年とする、新たな「会員による活動グループの登録制度」に則り、活動グループの登録申請を審査し、問題ないものについて理事会に報告した。
- ④ 休会制度の要件の拡充について、地域本部から要望が出たことから検討を行い、長期療養の場合等要件の追加を行った。
- ⑤ 県支部における特別役職者の設置について検討を行い、地域本部と相似的な制度の導入を検討し、理事会において承認された。
- ⑥ 近畿本部兵庫県支部、中国本部山口県支部、鳥取県支部の設置申請を審査し、理事会への付議、報告を行った。
- ⑦ 関東甲信 8 県の支部長会議を開催し、統括本部支部間の情報連携を図った。
- ⑧ 平成 27 年度に引き続き、地域本部関連事項検討小委員会を継続し、地域本部からの提案事項などに対し検討を行った。
- ⑨ 常設委員会などから依頼のあった諸規則の制定、変更、廃止について審議し、助言を行った。
- ⑩ 諸規程において、これまで規程変更内容が十分に反映されてものがあつたことから、全ての規程について形式面からの確認を行い、必要な変更を加えた。

3) 企画委員会

- ① CPD 行事の中央地方の格差是正のため、Pe-CPD 教材の収録、視聴の利便性を向上させられる新しい動画配信機能ソフトとして”CamtasiaStudio”を選定し、希望する地域本部へソフトを配布した。
- ② 上記の収録ソフトを普及させるために、利用マニュアルを作成し、試行として全国大会(横浜)、新春記念講演会等の講演会を収録してコンテンツを本会 HP にアップした。
- ③ 同じく中央地方の格差是正のため、TV 会議システムによる同時中継の推進に向け、現状の設備状況、ネットワーク環境を点検し、後継設備の検討を開始した。
- ④ 第二次試験合格者の連絡先(メールアドレス)取得と入会勧誘面での活用を検討し、入会者、アドレス登録者に対して、CPD 教材を無料閲覧できるようなサービスを開始した。
- ⑤ 前期に引き続き、PDCA サイクルを意識した各委員会からの予算申請ヒアリングを行い平成 29 年度の予算編成を実施した。
- ⑥ 各委員会及び各部会の講演会等における講師等への種々の謝金制度及び交通費支給の現状を調査・整理して報告をまとめた。
- ⑦ 一般会計の長期的な財政健全化の再検討を行うとともに、会員の活動に伴う交通費等の支給制度の拡大を提案し、残る課題を財政レポートにまとめた。
- ⑧ 予算執行における委員会からの予算追加・組替え申請に対する審査を行った。

4) 研修委員会

昨年度に引き続き「継続研鑽小委員会」、「技術系人材育成小委員会」、「全国大会支援小委員会」の 3 小委員会により、技術士及び修習技術者に対する研修、継続研鑽(CPD)に関連する制度等について検討を行った。

- ① 「技術士 CPD ガイドライン(第 2 版)」に則り、技術士 CPD 登録証明書の発行申請、技

術士 CPD 認定会員の申請に対応した。なお、CPD 登録証明書の発行件数は、昨年度の 7.8%増の 814 件となった。

- ② 技術士 CPD の信頼性の向上を図るとともに、より多くの技術士が CPD 登録できるよう技術士 CPD ガイドライン（第 2 版）を改定し、「技術士 CPD ガイドライン（第 3 版）」を制定した。適用は平成 29 年 4 月 1 日からとし、広報用のパンフレットを作成した。
- ② 現在 18 団体が加盟している「建設系 CPD 協議会」の事務局を平成 28 年 4 月から引き受けた。また、CPD 機会の拡大、関連学協会との相互承認を推進するため本会の各組織から申請された技術士 CPD プログラムを同協議会のホームページに掲載した。本年度の掲載件数は 108 件。
- ④ 技術士及び技術士 CPD 制度に関する関係学協会との連携を深めるため、日本工学会、日本技術者教育認定機構（JABEE）、建設系 CPD 協議会等の委員に会員を推薦した。
- ⑤ 研修委員会委員及び地域本部推薦の会員計 16 名を審査員として委嘱し、CPD 定期審査を実施した。今年度は技術士 CPD 認定会員の約 10%にあたる 64 名を対象に CPD 記録の内容について審査した。
- ⑥ 迅速な審査の観点から実情に即した内容等を盛り込んだ技術士 CPD 審査規則及び手引きの改訂について検討し、3 月理事会で承認された。
- ⑦ 技術士を目指す方々への PR 戦略として昨年度改訂された「修習技術者ガイドブック（第 3 版）」の普及活動、修習技術者向けパンフレットの改訂検討を行った。
- ⑧ 大学等の教育機関に対し技術士及び技術士制度の説明会を開催するために、実施方法や説明資料の検討を行った。
- ⑨ 平成 28 年 11 月に横浜で開催された「第 43 回技術士全国大会」の活動を支援した。

5) 広報委員会

月刊『技術士』発行及びホームページ管理を主軸に、会員のための広報を目指して活動を継続した。特別号は、設定したテーマで年 2 回発行した（7 月号、12 月号）。また、対外広報活動では、月刊『技術士』、ホームページ、マスメディア等を通じた広報の推進について検討した。

- ① 「プロフェッション宣言」と「倫理要綱」をクリップボード交互掲載とした。
- ② 投稿の手引き、原稿執筆要綱、査読の手引き、及び査読マニュアル等を、現状に即して見直した。
- ③ 平成 28 年度特別号（7 月号、40 ページ）は「女性技術士特集号」を企画、坂東消費者庁長官を囲んだ当会女性会員による座談会企画を掲載するほか、活躍する女性技術士の姿を紹介した。12 月号では、通巻 600 号を記念し「これからの技術士－地球環境の保全と防災・減災に向けて－」をタイトルに、日本の先端技術・施設の紹介、各部門の注目すべき最新技術と将来展望を紹介した。
- ④ 国立国会図書館へ働きかけ、月刊『技術士』を国会図書館の採録誌とすることを実現した。

6) 社会委員会

「司法小委員会」、「広報小委員会」の 2 小委員会により、以下の活動を行った。また、工事監査支援ワーキンググループも継続して活動を行った。

- ① 「司法小委員会」は、司法支援技術士のパーソナル DB から入力可能となったので、HP による広報、司法支援技術士名簿の充実を目指すとともに、裁判所から鑑定人等の推薦依頼が来た場合、手順に従って、適任と思われる鑑定人等の紹介を継続した。また、

司法支援の内容と実際例に関する司法支援講習会を平成 28 年 7 月 2 日に、4 人の講師による講演を開催した。受講者はWEB中継の参加を含め 71 名となり盛況であった。

②「広報小委員会」は、事例発表グループ、HP グループ、情報集約チームの 3 つに分かれて活動を行った。

・事例発表グループは、経営工学、応用理学、上下水道、航空・宇宙の 4 部門の具体的内容に係る、「第 7 回社会活動事例発表会」を平成 29 年 2 月 25 日に開催し、WEB中継の参加を含め、53 人の参加を得た。

・HP グループは、社会委員会関連のホームページの記事を更新、充実を図り、技術士及び日本技術士会が行っている社会活動の具体的な紹介を行った。

・情報集約チームは、技術士が行っている社会活動に関する情報を集約し、その情報を整理して、順次公開し技術士の社会活動を支援していくこととしている。

③ 工事監査支援ワーキンググループは、本会に依頼された工事監査を実施（20 自治体、26 件）した。平成 28 年度は、平成 27 年度の実績が維持できた。

7) 国際委員会

国際委員会は平成 27 年 6 月に常設委員会として発足した。立ち上がりの 2 年間は、急を要する案件のみならず長期の展望にもとづく課題が山積していたので、とりあえず 3 つの小委員会を設けて対処することにした。

隔月に開催される国際委員会の会合では、各小委員会の取組結果を議論し、議論が不足する場合、または新たにでた問題に対処する必要がある場合などは、国際委員会が開催されない月に幹事会を開催し全体が滞らないよう運営した。立ち上がりの 2 年間は運営体制を確立し何とか船出ができた期間であったと考える。以下に主な実績を記述する。

【第 1 小委員会（総括・広報）】

・英文表記を統一し規則として登録した。

日本技術士会の組織名、役職名等の英文表記及び技術部門名、選択科目名の英文表記について各部門の意見を踏まえて統一化を図った。本会の規則として登録した。

・国際委員会のホームページを刷新した。

国際協力活動を広く会員に知っていただくため、また会員の海外での技術士業務に役立てていただくため、定期的に更新する体制とした。

【第 2 小委員会（IEA）】

・英国の IPEA 国際エンジニア登録システムをレビューした。

IEA の事業協力の一環として英国の IPEA 国際エンジニア登録システムを審査した。日本が主査となり副査のカナダ、インドと共同で審査を行った。

・2018 年に予定されている日本技術士会の APEC エンジニア/IPEA 国際エンジニア登録システムの受審に備えるため WG を結成した。

・IEA 総会に出席した。

5 月 31 日（火）～6 月 3 日（金）クアラルンプール（マレーシア）で開催された IEA 総会に参加。APEC エンジニア/IPEA 国際エンジニア登録システム等に関する国際動向の情報を収集した。

【第 3 小委員会（海外活動）】

・世界各国の技術者団体と友好協定を締結した。

中国国家外国専門家局：H28 年 4 月（更改）、日豪 APEC エンジニア 2 国間協定：H28 年 5 月（更改）

・上記の国々（エコノミー）の他に H27 年度に友好協定を締結した豪州、英国機械技術者協

会、台湾經濟部とも情報交換を行い、協力関係を築いた。

- ・中華人民共和国山東省科学技術協会より交流の申し出があり、検討した。
- ・FEIAP（アジア太平洋地域技術者協会連盟）に参加した。

アジア太平洋地域のエコノミーの技術者協会との交流を通じて、日本技術士会として幅広い活動を行った。

- ・過去の協定書・覚書を整理した。

過去に締結した協定書・覚書のなかには、締結後アクションの無いものがみられるので、整理した。

(b) 実行委員会

1) CPD 支援委員会

技術士 CPD の実践は、技術士法に定める技術士の責務であり、会員の CPD の一層の推進を図るべく、各種行事の企画・運営や教材の開発を行った。主な活動は次のとおりである。

- ① 土曜日の 13～17 時の「技術士 CPD 中央講座」を 8 回、平日の 18～20 時の「技術士 CPD ミニ講座」を 5 回開催、うち 2 回は地域本部開催（近畿および中国）を東京へ Web 中継した。
- ② 16 年 6 月に技術士活動実績の業績・研究の発表の場として「第 34 回技術士 CPD・技術士業績・研究発表年次大会」を開催した。20 件の論文応募のうち優秀な 10 件について口頭発表を行った。各部会の審査員協力を得て 2 件の優秀発表を表彰した。
- ③ 平成 28 年新年賀詞交歓会の前行事として「新春記念講演会」を実施した。光触媒の発見者である東京理科大学・学長の藤嶋昭先生を講師に招いて「研究は楽しく：ヒントは身のまわりにある～光触媒を例にして」をテーマに講演頂いた。
- ④ 16 年 4 月の「技術士第二次試験合格者研修会」では合格者に CPD の重要性と技術士 CPD 制度の概要、CPD の実施・登録方法などを説明した。
- ⑤ 技術士 CPD 教材は国際化を視野に入れた農業関連をテーマアップし、今後、平成 29 年度発行を目指す。会員サービスの一環として本件教材から会員へ無償頒布 (Web) を計画している。
- ⑥ 平成 28 年度の技術士フォーラムは「化学物質管理」をテーマに企画しており、タイムリーな社団法人設立後の 17 年 8 月へ延期したうえでの開催を計画している。

2) 修習技術者支援委員会

修習技術者に対する IPD（初期専門能力開発）のための各種修習の場を提供することを主目的として、①修習技術者研修会、②修習ガイダンス、③キャリアアップ/研修セミナーを月例行事として行った。（8 月は休会）各行事の広報・案内は、メーリングリスト、WEB による告知を中心に行った。各行事については WEB 会議システムや YouTube の配信システムを有効活用することにより情報共有における地域格差の是正に努めながら活動を進めた。

① 修習技術者研修会（8 回）

研修テーマは「専門技術能力」「業務遂行能力」「行動原則」の 3 テーマで実施した。平成 29 年 1 月に実施した修習技術者発表研究会の年次大会では上位者の優秀なプレゼンを聴講することで修習技術者の資質向上の底上げを行った。（会員/非会員の合計 132 名参加）

② 修習ガイダンス 2017（1 回）

平成 29 年 2 月 4 日に技術士制度と技術士試験制度、および修習方法についてのガイ

ダンスを実施した。技術士試験制度の説明においては制度改定の方向性や誤解しやすい部分を重点的に実施した。(JABEE、一次試験合格者(191名)、技術士(19名)の計213名参加)

③ 研修セミナー(11月)/キャリアアップセミナー(3月) (計2回41名参加)

11月に実施した第29回研修セミナーでは「安全で安心できる社会を目指して」というテーマで修習支援を行った。従来2日で実施していたものを1日に圧縮して効率化を図った。

平成29年3月にキャリアアップセミナーを実施し、現状とのギャップ分析を行い修習スケジュールの明確化と意識付けを行った。

上記①～③の活動で合計386名の参加者に対し、修習の場を提供した。

3) 青年技術士交流委員会

青年技術士交流委員会は、支部交流、国際交流、青年層向け研鑽事業、社会貢献活動を実施し、本会に対し青年層からの提言を心がけた。

① グループワークやディスカッションなどのアウトプット型の研鑽イベントやスポーツ交流を含む交流会を毎月1回以上の頻度で開催した。昨年度に引き続き、第一次試験・第二次試験合格者が4月の特別例会である合格者交流会まで継続して参加でき、スムーズに入会に至れる動線の強化を行った。

② 特別例会として、『第一次試験・第二次試験合格者交流会』を開催し、参加者の専門性をアピールできる場としてインダストリー4.0を題材とした企画を実施した。

③ 社会貢献活動の一環として夏休みの小学生を対象とした理科教室を実施し、科学技術分野の普及と、技術士知名度向上を図った。

④ 国際交流活動として、日韓技術士国際会議(日光)におけるサッカー親善試合の開催支援を行った。またマレーシアのYECのメンバーを日本に招待し、二国間交流を行った。

⑤ 技術士全国大会では青年の集いと題し、統括本部及び地域本部の交流会議やテクノツォリズムを開催し、全国各地域本部青年組織の交流の促進と活動内容の共有を促進した。

⑥ 第一次試験合格者ガイダンスにおいては、パネル討論会を実施し、受験者としてのモチベーション向上に貢献できた。また、その後の祝賀会を実施し、参加者同士の交流を促進させた。

⑦ 平成27年度活動年鑑を制作した。またホームページやブログ、フェイスブック等を積極的に更新し、活動紹介、主催行事の事前広報及び事後報告に活用した。

⑧ ITを活用した会員サービスについての改善活動を開始した。

4) 技術士活性化委員会

① 技術士開業研修会を開催した。

・入門コース…5月28日に開催し、62名の参加者を得た。東北、北陸、近畿、中国、四国本部にWEB会議システムにて配信を行った。

・実践コース…6月17日・18日に開催し、41名の参加者を得た。

② 「技術支援基礎講座 -合意形成のプロセスデザイン-」を9月20日に本会会議室にて開催し、44名の参加者を得た。中部本部にWEB会議システムにて配信を行った。

③ 「技術支援基礎講座 -プロジェクトマネジメント革新 ~プロジェクト成功の条件を学ぶ~」を12月6日に本会会議室にて開催し、60名の参加者を得た。北海道、北陸、中部、近畿、四国本部にWEB会議システムにて配信を行った。

③ 「技術支援基礎講座 -企業支援における環境視点(省エネルギー・CO2削減)の取

- 組み一」を平成 29 年 3 月 14 日に本会会議室にて開催し、54 名の参加があった。北陸、中部、近畿、中国の各地域本部に WEB 会議システムにて配信を行った。
- ⑤ 「知的資産経営 WEEK2016 セミナー ー知的資産経営における技術士への期待ー」を平成 29 年 1 月 19 日に本会会議室にて開催し、46 名の参加者を得た。近畿、中国本部に WEB 会議システムにて配信を行った。
 - ⑥ 外部から依頼された技術士紹介業務について 50 件の依頼があった。迅速に対応できるように、技術士パーソナルデータベース (PDB) の普及・促進を図り登録者は 500 名を超えた。
 - ⑦ 「技術士業務についての外部からの依頼に関する規則・手引」について請負契約を前提としている点、また、委員会組織変更を反映していない点があったため、字句の修正とあわせて修正、変更した。
 - ⑧ 平成 25 年 2 月に“技術士業務報酬に係るアンケート調査”を実施したが、データが古くなったこと及び会員からの更新要望もあり、第 2 回目の技術士報酬アンケート実施した。250 名からの回答があった。
 - ⑨ 「技術コンサルタントガイドブック第 5 版」を作成した。印刷物を廃止し PDF を技術士会ホームページへ掲載することとした。(平成 29 年 5 月 HP 掲載予定)

5) 防災支援委員会

平常時における「地域の防災・減災活動」の支援及び東日本大震災復興の被災地・避難者支援、ならびに熊本地震災害防災会議等を実施した。主な活動内容は、以下のとおりである。

- ① 平常時の「地域の防災・減災活動」の支援
 - ・墨田区災害復興支援組織の活動において、墨田区防災フェアでのパネル展示・相談会のほか墨田区総合防災訓練、糸魚川市火災被災地視察を支援した。
 - ・秋葉原駅周辺地域協議会において、外国人帰宅困難者の防災訓練、講演会・協議会運営等を支援した。
 - ・横浜市青葉区藤が丘地区、梅が丘地区、常総市水海道森下町で減災まち歩き・減災マップづくりの講習会を開催したほか、千葉県佐倉市ユーカーが丘自治会の防災講演会の開催を支援した。
- ② 防災支援委員会の防災・減災に関するシンポジウム・セミナー等の開催
 - ・技術士全国大会 (横浜) の関連行事として「第 12 回全国防災連絡会議」を『地域防災力向上に向けて、技術士の役割』をテーマにワークショップ形式で開催し、85 名が参加した。
 - ・「第 21 回横浜震災対策技術展」において、「実践的」な防災・減災への取り組み」のセミナー及び防災展示・相談会を開催した。セミナー参加 200 名、相談 7 件、展示ブースでは防災カード 2,200 枚ほかを配布した。
 - ・CPD 研修として、原子力・放射線部会と共同での「東日本大震災 5 年目勉強会」(全 7 回: 2 回は前年度開催)、さらに、被災者支援に関する基本法令研修 (全 6 回) を企画・開催した。
- ③ 災害復興まちづくり支援機構での活動
 - ・「専門家と考える災害への備え: 復興準備編~住民主体の復興を進めるために、我々ができること~」シンポジウム、都市復興模擬訓練、マンション問題研究会、防災展等への協力を行った。
 - ・「首都防災ウィーク」において、親子等で参加できる防災クイズを実施し、防災クイ

ズ及び家具固定体験・防災よろず相談会に合計 118 名の参加があった。

④ 墨田区災害復興支援組織での活動

・災害復興支援の準備として「東京都震災復興マニュアル」の墨田区版を作成するための勉強会に参加した。その他、被災者支援に関する基本法令をまとめた「専門家手帳」を作成した。

・「防災フェア」で防災クイズ、建物と地震動実験のデモを行い、460 名近い参加者があった。

⑤ 東日本大震災復興支援の取組み

・東日本大震災 5 周年シンポジウムを、宮城県仙台市にて開催した。約 100 名が参加した。

⑥ 熊本地震災害防災会議

・九州本部の熊本復興支援会議における 4 回の支援会議、現地調査、報告書作成について、データ提供や費用負担で活動を支援した。

・御船町などでの被災者相談会（災害復興学会主催）に技術士会として参加した（九州本部に報告済み）。

6) 科学技術振興支援委員会

平成 27 年度に引き続き、28 年度も 22 名体制で活動を行った。委員会は 3 小委員会から成り各小委員会の活動は次の通りである。

① 第一小委員会

・会員が行う理科教室、科学技術系イベント活動への支援

理科支援活動への支援申請書及び申請要領について改定を行い、7 月 1 日に会員に向けて同報メールで周知徹底した。28 年度の支援件数は 3 月末で凡そ 45 件である。

・第 58 回科学技術週間行事におけるサイエンスカフェについて

全国の会員に対して積極的な呼び掛けを行い、東京会場分は 1 件、大阪会場分は 2 件が選考された。

・理科教育支援活動を行う会員情報の維持管理

全国の会員が実施した理科支援活動についての情報（対象者、実施内容、成果等）の充実を行い、データベース化を図るために継続して進めている。

② 第二小委員会

・サイエンスアゴラへの参画

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が主催するサイエンスアゴラ 2016 は、JST が提案する企画公募の趣旨に沿って、3 テーマの中から今回は「震災復興 5 年に学ぶこれからの科学の役割」を選択し、今回初めてセッション型で応募して採択された。会場は日本科学未来館のイノベーションホールで 5 名の講師によって、石巻市の震災復興状況、高層ビルの耐震性の解説、東京スカイツリーの建設過程における耐震高層技術の講演が行われ、午前、午後合わせて 125 名ほどの参加者を得て盛況の中で終了した。

・文科省主催のサイエンス・インカレへの積極的参画

4 年前から文部科学省が主催する当該事業に積極的に参画している。特に論文審査においては当委員会委員全員が参加して審査を行い、公益社団法人日本技術士会会長賞の候補論文の選定を行っている。平成 28 年度第 6 回サイエンス・インカレにおける論文審査は、応募総数 241 論文の中から第 1 次審査を通過した 173 論文について、口頭発表分野の論文の中から医学系関連の論文を除いた 44 論文を審査した。その結果、東海大学工学部機械工学科の大類進さん発表の「多指および手首関節を有する前腕義手の筋電位による実時間

制御」に授与することが出来た。

・その他

PR用のクリアファイルが在庫ゼロとなったため、表面に印刷した周期律表の見直しを行い、新たに113番元素のニホニウム(Nh)を追加して1,000部を印刷した。

③ 第三小委員会

- ・第1回理科実験事例発表大会の開催を行った。今回は地方本部の参加も考慮してWeb中継方式を取り入れた。参加人員は総計63名である。
- ・特別講演として、「身近な材料で土木の中の科学を伝える」の演題で、藤井俊逸氏(理科実験で文科大臣賞を受賞)が講演を行い、理科実験ではプレゼンテーションで多くの実績を有する藤井氏を含む4名の会員の方々が講演した。発表大会及びその後の懇親会も盛況の中で終了した。今後継続して毎年事例発表大会を行い、「理科教育用教材等事例集」の充実につなげていく。
- ・理科教育支援活動を行う会員の情報管理
第一小委員会の「理科支援活動への支援申請書」に基づき、会員による都道府県別、個人別開催回数等を整理し、会員の活動状況を把握した。
- ・HPの充実
現在も継続して見直しを進めている。内容的に新規でないため全面的な改定を進める予定。
- ・埼玉県総合教育センターの展示ポスターの改定
写真等を新しいものに変更し、内容一新して新しいポスターとして作成し展示し直した。

7) 日韓技術士交流委員会

栃木県日光市での第46回日韓技術士国際会議(栃木県・日光)の企画・運営を中心に活動を行った。主なものは以下の内容である。

- ① 第46回日韓技術士国際会議(栃木県・日光)を日光市のきぬ川ホテル三日月で開催した。総勢332名の参加者を得て盛大な行事となった。
- ② 本会議の企画・運営に当たっては、4月の日光市での両国の合同委員会の開催等、韓国技術士会と緊密に連携し、無事開催することができた。
会議等のイベント会場と宿泊先を一箇所(きぬ川ホテル三日月)に集めることで、会場間のバス等移動・運行の負担を削減し、円滑な運営がなされた。
- ③ 平成30年度の第48回日韓技術士国際会議について近畿本部に開催検討を依頼し、調整中である。近畿本部で、神戸市(予定)における開催を積極的に推進している。

8) 海外活動支援委員会

会員技術士による国際エンジニアとしての海外業務開拓の支援活動を、予めPDB(パーソナルデータベース)登録会員を対象に展開した。調査情報小委員会、研修小委員会、活動機会支援小委員会、ベトナム小委員会、台湾小委員会などの小委員会に分かれて、それぞれの小委員長のリダーシップの下で今年度は、以下の活動を実施した。

- ① 中国国家専門家局との相互技術交流に係る協定書交わし、4月11日~19日に貴陽市、深圳で開催された技術専門家世界大会に代表2名が参加した。
- ② 2016年8月4日寧波市北倫区で中国国家専門家局主催の「日中人材技術合作発展会議」に15名の技術士が参加し、技術講演、企業診断を実施した。
- ③ 2016年11月22~24日、台州市(557万人都市)開催国際人材交流会に日本からの代表7名が招聘され、現地企業と面談し、工場診断を行った。
- ④ 2016年11月8~11日台湾經濟部の招聘で7名の技術士が台北、台中を訪問し、企業

- 面談マッチング会、精密機械研究発展センター、風力エネルギー協会の見学等を行った。
- ⑤ 在日ベトナム人留学生との技術交流、意見交換会（フォードンの会）を6回開催し、ベトナムダナン市の経済発展計画についての現地調査プロジェクトを立ち上げ、2016年12月13～17日に3名がダナン市人民委員会、ダナン工科大学を訪問した。
 - ⑥ 2017年1月27日、JICAの協力を得て海外技術協力実務講習会を開催し、70名の参加者、Web中継の全国地域本部参加者が、技術士の海外業務開拓に向けて活発に交流した。

(c) 個別規程による委員会

1) 男女共同参画推進委員会

- ① 女子学生支援ワーキンググループにおいて、技術者・技術士を目指す女子学生・女性向けに技術サロンを首都圏で4回開催した。学生、若手社会人、本会準会員が参加、技術士制度及び試験の説明や技術士に必要な能力、職場環境の悩みなど種々の質問に対してアドバイスを行った。
- ② 「技術サロン報告書ーいま、そしてみらいの女性技術者が輝くためにー」の第2刷を発行した。当該報告書は、技術サロン参加者、高専・大学関係者などに好評であり、ウェブにて公開した。収録している「女性技術者育成への提言」はポスターとし、全国大会などのイベントで公開した。
- ③ 独立行政法人科学技術振興機構理系女子中高生の理系進路選択支援事業「女子中高生夏の学校2016～科学・技術・人との出会い～」(国立女性教育会館)に参加。技術者・研究者への進路選択や技術士を紹介するポスターを展示、理工系選択から技術者・技術士への流れをもたせた。
- ④ 第14回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム「国際的にみて日本の研究者における女性割合はなぜ伸びないのか？」において、当委員会の活動やキャリアモデルのポスター展示を行った。報告は連絡会ウェブサイトに掲載している。
- ⑤ 月刊『技術士』に「男女共同参画シリーズ その2」として、女性が技術士資格を活かして組織や地域においてリーダーシップを発揮しながら、生き活きと活動している状況を発信する企画を提案、掲載が開始された。
- ⑥ 第43回技術士全国大会(横浜)において第5分科会「男女共同参画」を運営、「科学技術系専門職である女性技術者の育成、女性リーダーを育む環境整備について」をテーマに討論会を行った。
- ⑦ 女性会員のネットワークの構築の第一歩として女性会員向け同報メールを開始した。
- ⑧ 技術士第一次試験合格者・JABEE修了見込者ガイダンスにポスター参加した。
- ⑨ ウェブサイトの「見える化」や「当会会員・準会員のキャリアモデル」を活用した広報に努めた。

2) 第43回技術士全国大会運営委員会

平成28年11月13日～16日にパシフィコ横浜を主会場として開催された「第43回技術士全国大会(横浜)創立65周年記念大会」を円滑かつ効果的に企画・運営するために検討を行った。

- ① 運営委員会の体制は渉外、広報、式典、会計、危機管理及び分科会の6つの小委員会とし各小委員会の業務所掌に基づき検討した。
- ② 運営委員は50名以上選任されることから、運営委員長、副委員長及び小委員会委員長によって構成される運営会議において活動の報告、調整、指示等を行った。

③ 各小委員会の主な検討業務は次のとおり。

- 1) 渉外小委員会：広告協賛のお願い、後援機関への依頼、式典における来賓挨拶の選定、大会当日の受付業務
- 2) 広報小委員会：参加申込書の企画・製作、手提げ袋の作成、当日配付の大会誌の企画・原稿手配・作成、ホームページへの大会案内の掲載、大会記録及びプレス対応
- 3) 式典小委員会：記念式典・記念講演会・交流パーティの企画・役割分担・運営、パシフィコ横浜との調整（会場レイアウト、機材、備品等）、記念講演者・司会者・大会宣言者の選定、ウエルカムパーティの企画・運営
- 4) 会計小委員会：収支予算の作成、講師謝金・経費精算の規程類の作成、予算の執行管理、交流パーティにおけるクローク業務
- 5) 危機管理小委員会：危機管理マニュアルの作成、テクニカルツアーの添乗、危機管理上看護師常駐の検討
- 6) 分科会小委員会：各分科会の企画・運営状況の確認、ポスター展示の実施、基調講演者等の選定・原稿の依頼、分科会収録の検討、各分科会の進行管理

3) 技術士制度検討委員会

8月までは2ヶ月毎、10月以降は毎月委員会を開催し、技術士制度の在り方の検討を行った。主な活動は、次の通りである。

① 現行技術士制度の課題を整理すると共に、論点の整理を行った。

技術士制度の論点として、登録した技術士の現状（生死の別や技術士としての活動の有無）の把握が出来ていないこと、資質向上の責務があり、個々の技術士はその責務を果たしていると推定されるが、一部を除き客観的に証明されていないことから、信頼性の観点から課題となっていることが挙げられた。

② 課題の解決策として更新制の導入等が考えられるが、更新制の方策、導入の課題を整理するため、更新制度導入のメリット、デメリットを整理すると共に、弁理士、中小企業診断士、教師等、更新制または更新制と同等な方式を中途から導入している国家資格及び更新制度を持つ民間資格制度の整理を行った。また、参考のため米国PE制度の更新内容の調査を行った。

③ 本年度の文科省技術士審議会技術士分科会において現行の技術士制度に対して下記の課題が挙げられた。同審議会において有意義な審議を実施して戴くため、本委員会では、検討を進めてきた技術士制度の課題と解決策に加え、報告書（提言）では技術士会における過去の検討等を参考に、以下の課題に対する方策も整理して加えるよう作業を進めている。

課題1：更新制度の導入、課題2：技術士補の在り方、課題3：IPDへの支援方策、

課題4：総合技術監理部門の在り方、課題5：技術士資格の国際的通用性、

課題6：他の国家資格との相互活用、課題7：産業界での活用促進

(d) 役員候補者選出選挙管理委員会

1) 本委員会は役員候補者選出選挙及び地域組織における幹事選出選挙を所掌し、その事務を管理する。

2) 会議開催状況

本委員会は委員長、副委員長、幹事で構成する幹事会を設け、緊急性のある課題に対処し、また地域組織における幹事選出選挙の事務を管理することとしている。

平成28年度における活動は以下の通り。

- ① 平成 28 年 6 月 30 日
兵庫県支部 幹事信任投票開票作業のため開催
- ② 平成 28 年 8 月 31 日
山口県支部・鳥取県支部 幹事信任投票開票作業のため開催
- 3) 平成 29 年役員候補者選出選挙等実施に向けた、新たな役員候補者選出選挙管理委員が委嘱され、平成 28 年 11 月 15 日に第 1 回の会議を開催した。

(3) 部会の活動

本会の重要施策についての円滑な実施を図ると共に、部会相互の連絡協調及び部会活動の活性化に資するため、部会長会議を 4 回開催した。部会長会議の開催状況及び審議事項等、また、各部会の開催回数、部会における講演会及び見学会は付属明細書を参照。

1) 機械部会

毎月開催される幹事会で部会の活動内容の細目を決定している。幹事会に合わせて例会も毎月開催した。さらに今年は見学会を 2 回開催した。

① 会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

基本的には部会幹事会を毎月第二金曜日に開催している。幹事以外の会員が幹事会を聴講しやすいように、6 月は第二土曜日、11 月は日曜日に幹事会を開催した。

幹事会では各種審議事項の意思決定や報告などを行っている。

② 講演会

幹事会の後に例会を行った。例会は講演会を主に行っているが、例年通り 1 月は新春懇話会、4 月は一次、二次合同の新合格者歓迎会を行った。また例会においては委員会の報告など部会員への情報提供も行った。講演会の講座数は題目により 1 あるいは 2 講座とし、講演後に講師及び会員との親睦を図るため懇親会を開催した。また地域本部との交流を図るために講演は Web 中継を実施した。中継先として九州、中国、中部は毎月、北海道は不定期で行った。10 月の例会の一講座は中部本部での講演を他の地域に Web 中継した。

6 月は平日の例会では参加が難しい会員のために、例会を土曜日に行った。講演の他に通常の例会では難しいアイデア発想のワークショップを行った。11 月は第二金曜日に代えて、全国大会に合わせ翌々日の日曜日に併設部会を行った。

また、日本機械学会の年次大会の中で日本技術士会機械部会の企画として市民フォーラムを開催した。これは昨年まで材料力学カンファレンスで行っていたものを発展させたものである。

③ 見学会

平成 28 年度は 2 回見学会を開催した。2 回共募集人員近くの方に参加頂いた。

③ その他

・新合格者の機械部会会合への参加を促すために、今年も 5 月から 12 月迄の機械部会主催の会合に無料で参加出来る券（通称パスポート券）を発行し、会合への参加者増加を目指した。

・日本機械学会の機械の日行事のひとつである絵画コンクールの表彰者に今年も副賞としてネジキューブを授与した。

・さらに日本機械学会の機械週間の行事のひとつとして松戸市にて幼稚園年長組～小学校低学年向けの工作教室を開き、参加者には受講票を授与した。今年も親子合わせて約 120 名の参加があった。

・2 年前から機械部会に貢献された長老の方に感謝状（機寿賞）と記念品を贈呈しているが、今年も 2 名の方に贈呈した。

・最後に長年機械部会の活動に積極的に参加頂いていた田中宏氏が海外でテロに遭われ亡くなられた。7月の幹事会、例会において故人への弔意を示し、黙祷を行った。

2) 船舶・海洋／航空・宇宙部会

本部会は、日本技術士会で唯一複数の部門で構成されている部会である。主な活動として、奇数月に東京地区において定例部会を開催している。また偶数月に中部本部の航空部会が中部航空部会例会を名古屋・岐阜地区で開催しており、当部会はこれに連携している。定例部会、中部航空部会例会とも、通常20名前後が参加し、他部会からの参加者もいる。

① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

年次大会・委員会・幹事会は開催せず、計6回の定例部会（6, 7, 9, 11, 1, 3月に開催）にて連絡会を開いて情報共有を実施した。

② 講演会

講演会は定例部会・例会に併せて開催し、6回の定例部会、6回の中部航空部会例会にて、計12回開催した。平成28年度より定例部会において、講演会とともに、30分の話題提供（技術講演）を開催した。

③ 見学会

平成28年度は、実施しなかった。

④ その他

1月の定例部会で第一次試験合格者祝賀会、3月の定例部会で第二次試験合格者祝賀会を実施した。

3) 電気電子部会

① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

- ・部会報告会は、上期（7月）と下期（12月）に2回開催した。
- ・部会幹事会議は3回実施した。
- ・部会幹事、統括本部の常設委員会、実行委員会委員の変更を行った。
- ・日本技術士会第43回技術士全国大会・創立65周年記念大会への参加、第44回技術士全国大会への対応の確認を行った。

② 講演会

- ・講演会を5回（見学会と同時開催1回含む）開催した。
- ・統括本部での参加者は、電気学会とのCPD活動連携事業の効果を受け382名が参加している。
- ・本年度も引続き、WEB会議システムを活用し2回の講演会を地域本部に配信した。配信先は、東北本部、北陸本部、中部本部、近畿本部、中国本部、四国本部で、参加者は総勢72名であり、好評を得ている。
- ・講演会のテーマとして、極地に挑む技術、再生可能エネルギーが進む欧州におけるエネルギー政策と最新技術の動向等を取り上げた。

③ 見学会

- ・見学会は6回（講演会と同時開催1回含む）開催し、合計222名が参加した。毎回、定員を超過申し込みがあった。

④ その他

- ・4月には、電気電子部門の第一次試験・第二次試験合格者を対象とした歓迎会を開催した。
- ・電気学会と定期的な会議を開催し、相互の会員に直接CPD活動募集のメールを送ることより、講演会の参加人数を増加している。

4) 化学部会

平成28年度は部会役員は非改選期で、年次大会は事業報告・決算、事業計画・予算を審議した。

部会講演会の開催日は従来どおり、奇数月の第4 木曜日は午後開催、偶数月の第4 木曜日は企業内技術士など幅広い部会員が参加しやすいように夕方開催とした。また若手の部会員を主なる対象とした土曜例会を2 回開催した。なお、月刊「技術士」、ホームページの他、日本化学会など関連する八つの学会誌にも講演会の案内を掲載し、広く学協会員（非会員）にも化学部会の講演会への参加を呼びかけている。

① 年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

5月例会時に上記の内容の年次大会を開催した。幹事会は見学会の月を除き毎月開催し、講演会の講師選定や部会活動の計画・討議と委員会の報告・意見交換など情報の共有化を図っている。

② 講演会

従来の講演会を10 回、土曜講演会を2 回開催した。講演会後に情報交流会を行い、技術士の動き、各種委員会の取り組み、講演会・見学会スケジュールを報告し、参加者からは講演希望、見学先希望等を聞き、講演企画、見学企画に反映させた。

③ 見学会

富士フイルム株式会社神奈川工場（小田原サイト）（4 月）及びに防衛省防衛装備庁陸上装備研究所（10 月）の2 回実施した。

④ 化学物質管理研究会

・化学部会の中に「化学物質管理士」という民間資格を創設することを目的に設けた『化学物質管理研究会』が対外折衝、資格創設方法の検討、勉強会・セミナーの提供、実務研修を開始した。

統括本部、近畿本部、中部本部等から参加している会員数は46名。

・平成28年6月1日に年次大会（全体会合）を開催して会則、事業計画、予算を決め、2か月に1度程度「化学物質管理」の実務を解説する勉強会を開催し、（独）製品評価技術基盤機構の職員を講師とするセミナーを実施（12月）した。また、教育と研究に関係する二つの役務を指定して「化学物質管理士」という商標登録出願を行った（11月）。

⑤ その他

・化学部会主催の第一次試験合格者及びJABEE コース修了生歓迎会（4 月）並びに第二次試験合格者祝賀会（5 月）を開催した。

・平成28年度に引き続き日本化学会春季年会付設展示会（慶応義塾大学日吉キャンパス）に出展し、技術士及び本会のPR など実施した（3 月）。

5) 繊維部会

例会（講演会や見学会）の終了後に報告等を行い、部会員の情報共有と連携強化を図っている。

① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

平成28年度は4月の講演会終了後に、平成27年度の活動報告を行うとともに、平成28年度の部会体制や例会予定などを検討した。CPD 参加率を上げるため、例会は原則として毎月1回、土曜日の開催を基本としている。例会では全体会合・委員会活動・幹事会等を開催し、理事会、部会長会議や各委員会等の報告をして、会員相互の情報共有と連携強化を図っている。なお、本年度は新たな試みとして、部会員が多い関西地区で全体会議を開催し、意見や要望等を収集・把握した。

② 講演会

平成 28 年度の講演会は 7 回開催し、総勢 126 名が参加した。繊維関連では素材、加工及び評価という三つの視点で開催することになっている。平成 28 年度は、素材 2 件、加工 3 件、評価 1 件、その他 1 件の講演を行った。他技術分野のトレンドや動向などについても講師を招聘するなどの工夫をしている。繊維の用途は衣料用分野から産業用分野に拡大しており、このため電気・電子部会、環境部会、金属部会や建設部会等からの参加者も多くなっている。

③ 見学会

平成 28 年度は 3 回開催し、63 名が参加した。

・ 9 月 1 日、東京都墨田区にある「(株)川合染工場」は、ロータリー染色機、グラデーション染色機などの主要設備やボタニカルダイや東炊き染めなどの開発技術を見学し、情報交換を行った。大都会にある染色工場が生き残る方法が知ることができた。

・ 10 月 19 日、東京都多摩市にある「JUKI (株)ソーイングセンター」は、世界各国の縫製工場で稼働している各種工業用ミシン見学し、情報交換を行った。縫製企業の製品開発の支援拠点となっていることを認識させられた。

・ 平成 29 年 2 月 2 日、東京都葛飾区にある「(一財)ニッセンケン品質評価センター 東京事業所 立石ラボ」は、安全・安心の視点から再帰反射材、蛍光素材、蓄光素材の性能評価設備などを見学した。国内の規格も整備され、今後の展開が期待される分野である。

④ その他

・ 喫緊の課題である技術士試験受験者の増大に関しては、技術士(繊維部門)オープンセミナーを 2 日間開催し、技術士資格取得のメリットを説明した。

・ 例会等の活動については、繊維製品品質管理士会(TES 会)との共催開催を進めている。一部の見学会では、TES 会員が参加するなど連携が進んでいる。

6) 金属部会

1) 金属部会は来年で 60 周年を迎えます。この記念行事として何を行うかを幹事会にて検討した結果、記念誌を作成することに決定した。記念誌を作成するための準備委員会を立ち上げ具体的内容の検討を始めた。

① 部会における年次大会(全体会合)・委員会活動・幹事会；

来期の理事立候補者の選定並びに常設実行委員会の各委員の選任に関して、8 月並びに 12 月の幹事会にて検討した。

② 講演会；

毎月の第 3 水曜日の 18:00~20:30 において講演会並びに各委員会の報告や部会員との交流会を開催している。講演会は金属部会の新進気鋭の技術士から最新の最先端技術を中心に現実の生産現場での問題点などの講演会を開催してきた。

③ その他

平成 28 年度の技術士第一次試験及び第二次試験の新合格者祝賀会に総合監理の新合格者を含め合計 14 名の参加があった。

創立 60 周年記念行事として記念誌作成のため準部委員会を 2 回開催し、引き続き今後開催する予定である。

また、若手技術士の会「YES-Metals!」は平成 28 年度も毎月第 3 土曜日に開催し、最近先輩技術士の方々にこれまでの体験談や研究開発についての考え方を講演して戴いている。

7) 資源工学部会

本部会は会員数が50名ほどの少人数の部会で、主な活動は原則として2ヶ月に1回の例会と年1回の見学会の開催である。また、幹事会は必要に応じて開催している。例会の出席者は、資源工学部会員と他部会員が半々の比率になっており、20名前後のこじんまりしたものである。内容は、会員或いは有識者の講師による講演（1時間程度、質疑30分）となっている。

① 年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

平成28年度の幹事会は7月、9月、平成29年2月に開催し、理事会及び部会長会議報告、常設委員会委員からの報告等による情報交換、意見交換、必要事項の検討等を行った。

② 講演会

講演会は6回（4月、6月、9月、10月、12月、平成29年2月）開催し総勢147名と例年より多くの参加者があった。

演題は化石及び非化石エネルギーに関するもの、及び高レベル放射性廃棄物の地層処分に關するものであった。

③ 見学会

平成28年度は5月18日に行った。いわき市石炭・化石館を見学した。やや遠方であったこともあり8名の参加者にとどまった。

④ その他

4月の例会時に技術士第二次試験合格者2名、技術士第一次試験合格者1名の祝賀会を実施した。

8) 建設部会

① 年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

平成28年度も毎月1回の割合で幹事会を開催し、理事会報告や懸案事項の協議を通じた意見交換を行い、部会の意見を理事会等へ反映した。

また、幹事の大半は常設委員会や特別委員会、実行委員会の委員として参画し、各委員会と部会との意思の疎通を図っている。

部会には企画委員会、研修委員会、広報委員会を設け、部会への意見照会等の審議、CPD行事の企画運営、広報活動を行った。

② 講演会

講演会の企画運営は、部会研修委員会が行い、講演テーマおよび講師の選定、講師との折衝、当日の司会等について、担当者を決め実施した。

平成28年度は8回の講演会を開催し総勢371名が参加した。8回の講演会のうち1回（7月）については、WEB会議システムを用いた全国ネットの講演会とし、多くの地域本部から参加いただいた。このWEB講演会は、今後も実施していく予定である。

③ 見学会

平成28年度は3回の見学会（現場研修会）を実施し総勢81名が参加した。見学会のテーマは、シールドトンネル（東京外かく環状道路）、駅前再開発整備工事（渋谷駅）等であった。

④ その他

・前年度に引き続き、H29.1月に国土交通省との意見交換会を実施した。日本技術士会及び建設部会の活動状況について理解を得るとともに、建設事業における技術士資格の活用に関して意見交換を実施した。その中で、CPDの評価方法（継続教育の重要性）や工事業務に係る資格制度に関する考え方について確認した。

第43回技術士全国大会（横浜）において、建設部会全国合同会議の開催は見送ったが、

統括本部および地域本部合同の活動報告書を作成し、関係者へ配布した。また、第二分科会（都市再生）を建設部会で担当し、講演会やパネルディスカッションを開催した。

9) 上下水道部会

部会活動の総括や方針

部会活動は、上下水道部門の技術士にとって有益となるようなCPDの場を提供する講演会や見学会を中心に実施した。横浜市で開催された全国大会では、地元横浜市における上下水道に関する講演会を開催した。また、部会主催の講演会は各地域へWEB会議システムを用いて中継した。また、講演会は会員が参加し易いように、土曜日の午後と平日の夜を交互に開催するようにし、会員が参加し易い曜日、時間帯を検討してきたが、どちらも一長一短あり、今後も両時間帯、曜日で実施していくことにした。ただし、第一次、第二次技術士試験合格者祝賀会は新合格者が参加し易いように土曜日開催とした。

① 会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

総会を実施していないので同報メール及びCPD行事案内で会員に対し幹事会への参加を呼びかけたが、今年度の実績は8名のみ参加と余り効果がなかったが、昨年度よりは若干参加者が増加したので、今後も継続していく予定である。隔月開催している幹事会では、講演会、見学会等の企画や結果分析、重要事項の審議及び理事会、部会長会議、各委員会報告を行い、年間6回開催した。

② 講演会

講演会は6回開催し、延べ284（現時点）名（WEB参加を含む）が参加した。講演会のテーマは上水道関係と下水道関係が片寄らないように配慮した。

日本技術士会入会一年未満の会員は、講演会及び懇親会の会費を無料とした。

③ 見学会

当部会恒例の海外研修は、9月18日から25日にミャンマー及びタイを訪問した。ミャンマー国ではJICAの上下水道支援状況について説明を受けるとともに、ヤンゴン市の上下水道施設を視察した。

タイ国ではアジア工科大学を訪問し、大学の沿革、現状について説明を受けるとともに、環境に関する講演を聴講した。

また、12月6日には東京都水道歴史館を見学した。

10) 衛生工学部会

① 年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

平成28年度の幹事会は2回実施し、部会の運営方針、年次計画、見学会、講演会の内容に関する協議などを行った。その他、講演会並びに見学会時に部会を実施し、各委員会からの報告を行った。

② 講演会

講演会は、環境に関連した演題をはじめ5回実施した。「まちづくりと環境技術」、「ISO 9001:2015 品質マネジメントシステム規格改定」、「放射線に関する肩のこらないお話」、「廃棄物に関する国の動向等」、「石巻赤十字病院（増築・改修工事共）の事業継続（BCP対策）事例紹介」等について専門分野以外の講演もあり、周辺技術に関する理解を深めた。

③ 見学会

多くの会員に興味を持ってもらえるように見学会を5回行い、117名が参加した。部会の専門分野に関連して「日本無機（株）結城工場」、「相模原市南清掃工場」、「（株）荏原製作所藤沢工場」、「みなとみらい21熱供給会社」、「シンガポール地冷、排水処理施設」の見学会

を行った。シンガポールでは IES (The Institution of Engineers, Singapore : シンガポール技術者協会) を訪問し、ミーティングを行った。

④ その他

部会会員の親睦をはかるために、ゴルフ大会を 2 回 (6 月、10 月) 及び東京湾定点観測 (屋形船、8 月) を開催し他部門の方の参加もいただき開催した。

11) 農業部会

講演会等の開催が部会会員の拡大、活動の活性化を図る上で特に重要であるとの考え方から部会の講演会等活動を充実させるとともに、新規会員勧誘の場としても位置づけ、積極的に日本技術士会に未加入の技術士に参加を呼びかけた。また、部会活動活性化のため活動に熱心な会員についてできる限り部会幹事への登用を進めた。

① 年次大会 (全体会合)・委員会活動・幹事会

平成 28 年度は、通常の幹事会・例会を 5 回開催したほか、臨時の幹事会を 2 回開催し、第二次試験適正化検討作業部会への対応方針・提出資料とりまとめ、部会長公選化への対応方針等を協議した。幹事の大半は本部の常設委員会、実行委員会の委員として参画しているので幹事会、部会での意見交換を基に各委員会等に反映させた。また、平成 28 年度において幹事に新任 4 名を加え (退任 2 名) 幹事の更なる充実を図り、平成 28 年度末で幹事は部会長、副部会長を含め 35 名となった。

② 講演会

講演会は、5 回開催し各会約 30 名の参加を得た。4 月の講演会については合格者祝賀会を兼ねて実施し一次及び二次合格者合わせて 8 名の参加を得た。12 月の講演会、忘年会には日本技術士会に未加入の技術士にも参加を呼び掛けた。技術士会 HP へのコンテンツ提供、WEB 中継についても対応を行った。

③ 見学会

例年どおり 10 月に実施し、神奈川県下の折本・東方農業専用地区及び生産緑地 (横浜市)、泉橋酒造株式会社 (海老名市)、農業生産法人株式会社井出トマト農園 (藤沢市) を訪問した。参加者は 40 名と例年に比べて多く、参加募集を途中で打ち切った。

④ その他

- ・技術士 (農業部門) の専門科目として植物保護の受験者の増加を図るため、平成 27 年度に引き続き学協会との連携による PR に努めた。
- ・部会員が大学に出向き技術者倫理等の講義を行う際に技術士制度、JABEE 制度の説明を行った。

12) 森林部会

① 年次大会 (全体会合)・委員会活動・幹事会

部会総会は、4 月に開催した。平成 28 年度の部会幹事会議は年 5 回実施した。「森林部門技術士の活用促進」についての林野庁への陳情等について協議をした。

② 講演会

講演会は 5 回実施し、総勢 318 名が参加した。森林土木、森林環境、林産、林業の専門分野に関する講師を依頼し、実施した。

③ 見学会

本年度は実施を見合わせた。

④ その他

- ・技術士の活用、契約方式の変化に対応した技術士の活用、継続研修 (CPD) の積極的評価

について林野庁等に対し陳情を行った。

・ホームページ及び同報メールにより講演会の案内、森林行政の動向、部会の動き等に関する情報提供を行い、その拡充を図った。

13) 水産部会

部会活動は、CPD の場を提供する講演会を中心に実施した。部会主催の講演会は、参加しやすく予定が立てやすいように原則的に奇数月の第2土曜日とし、同様な趣旨で講演会開催時に技術士第一次試験、技術士第二次試験合格者祝賀会を開催し、また新合格者が参加し易いように土曜日開催とした。

① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

部会総会は5月に決算・予算報告を主として活動の総括を行い、次年度の活動計画についても報告・議論を行った。

幹事会活動は2ヶ月毎の講演会開催時に併せて行い、理事・部会長・各委員から理事会報告、部会長会議報告、各常設・実行委員会報告を行った。

② 講演会

例年通り2ヶ月毎に講演会を開催している。原則、水産に関する専門家を招き講演を行い、講演後に講演者との質疑応答などの自由討論を行っている。さらに水産部会研究発表会は、平成28年度は技術士全国大会に併催する形式で大会前日に横浜市で11月13日に基調講演会及び研究発表会を開催した。

③ 見学会

平成28年度は、開催を見合わせた。

④ その他

・ジャパン・インターナショナル・シーフードショー（東京ビッグサイト）において無料相談ブースを開設し、3日間で延べ13人の技術士が窓口を担当した。併せて市民向けに水産技術士の活動紹介パネルを作成・広報を行った。

・日本水産学会水産教育推進委員会、(国研)水産研究・教育機構及び水産庁との意見交換会を実施した。

14) 経営工学部会

平成28年度の部会活動方針として (A) 部会員へのサービス・情報提供、(B) 技術士の知名度・社会的地位の向上、(C) 地域本部経営工学部会等との連携、を掲げ活動した。(B)では、経営工学三団体連携活動、東日本大震災被災地復興支援活動に注力した。また(C)では全国大会を機に経営工学合同専門部会を開催した。

① 年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

例会9回、幹事会11回を開催した。例会では、CPDのための講演会を中心に、理事会・部会長会議、委員会の報告を行い情報共有を図った。また事業・収支の報告・計画を議案として年次総会を6月に開催した。さらに、全国大会の横浜開催を機に第2回経営工学合同専門部会を開催した。

② 講演会

今年度は6回開催し計278名が参加した。CPDの場の提供を目的に「実務研究」、「被災地復興支援」、「人財育成」などテーマ別に開催した。例会毎の「企画シート」を作成し、事後の評価と併せて次期の計画と継承に活用している。

③ 見学会

5月に開催し29名の参加があった。技術力を活かした特注モータ等の生産・修理工程現場や

自動化設備を活用した玩具の大規模ロジスティクス施設を見学し、参加者のCPD に寄与した。

④ その他

- ・日本経営工学会、日本IE 協会と経営工学三団体の連携を推進した。2月例会で人財育成をテーマに三団体連携の講演会を開催した他、経営工学会・日本IE 協会共催大会（10 月）での技術士事例紹介や「技術士を目指そう説明会」（東京：12月、大阪：1月）の共催を行った。
- ・東日本大震災被災地復興支援活動として、大船渡市主催の「大船渡なりわい未来塾」（平成29 年1 月～2 月）を第4 期として引き続き担当するとともに、卒塾生の起業への支援等を実施した。また、部会4 月例会では復興庁の専門家を招いて講演会を開催した。

15) 情報工学部会

情報工学部会の活動の主目的は、部会員の自己研鑽とヒューマン・ネットワーク構築の支援である。部会運営は、原則として月1 回の月例会（金曜日 18:30～21:00）と月1 回の幹事会（月曜日 18:30～20:30）を基本として実施した（この内、1 回は総会とした）。

① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

5 月20 日に総会を開催し、事業報告、会計報告、部会運営規約改正を行った。主要改正内容は、「議決を必要としない総会の場合は、出席者数による成立要件を要さないものとする」である。10 月28 日には、新たに「日本 IT ストラテジスト協会 (JISTA)」と共催で部会を開催した。11 月13 日には、技術士全国大会（横浜）に併設した特別部会（講演会及び全国の部会員間の交流）を実施した。

② 講演会

本年度は、10 回の講演会を開催した。この内、1 回は JISTA との共催、3 回は情報処理学会との（覚書に基づく）CPD コラボレーションとして講義とワークショップを実施した。11 月13 日には、技術士全国大会（横浜）と併設した特別部会として実施した。4 月と2 月は、2 次/1 次合格者祝賀会を兼ねて実施し、多数の新合格者が参加した。また、2 回については、地域本部からの申し出に基づき Web 中継を行い、地域本部部会員の参加の便宜を図った。

③ 見学会

本年度は3 回の見学会を開催した。5 月16 日に、35 周年記念シンポジウム講師、清水照雄副社長のご厚意により「(株)シグマクシスのオフィス」を見学した。6 月22 日に「海洋研究開発機構 (JAMSTEC) 横浜研究所」、1 月17 日に「国立印刷局東京工場」及び「お札と切手の博物館」を見学した。

④ その他

情報処理学会と連携し（覚書を締結）、高度 IT 人材育成等について取組みを進めている。9 月16 日には、情報処理学会との連携に関する覚書に基づき、打合せ及び覚書の改訂を実施した。改訂内容は、連携内容の追加（認定情報技術者制度における技術士（情報工学）資格の活用に関する活動）である。この他、新合格者・JABEE 修了者に対して1 年間有効の部会参加費1,000 円割引を実施し、部会参加の便宜を図った他、部会員の交流・意見交換の場として情報工学部会 SNS を運用している。

16) 応用理学部会

応用理学部会は毎月定例会（講演会および見学会など）を開催し、本会員および一般の専門技術者に継続研鑽の場を提供して、技術士のキャリアパスの支援や会員拡大など本会事業の目的に沿った活動を実践した。また、近年講演会に他部門の会員や一般の専門技術者が継続して参加している実績をより一層発展させるため、当部会の専門領域の他に周辺技術領域などの講演を企画・運営し参加者から高評価を得た。

① 部会における年度大会・委員会活動・幹事会

年度大会は5月に開催し、1年間の活動計画を決議した。定例活動は、毎月第3火曜日（12月のみ第3土曜日）とし、毎月幹事会、定例会および交流会を実施した。幹事会では、講演会企画および運営の他、理事会、部会長会および各委員会から依頼された検討議題などを定期的に話し合った。平成28年度は、総務委員会から依頼のあった「部会幹事等の選任方法の検討について」当部会の意見を提出した。定例会は講演会・見学会を含めて11回開催した。委員会活動には、常設委員に8名、実行委員に7名が参加した。

② 講演会

当部会の専門領域に限らず周辺技術領域および知財や技術者教育など幅広い講演を実施した。また、11月は第43回技術士全国大会（横浜）に併せて、応用理学部会創立15周年記念シンポジウムを開催し、応用理学部門の選択科目（物理及び化学、地球物理及び地球化学、地質）から3課題の講演を実施した。さらに、12月は資源工学部会との共催による講演会を実施し、両部会に関連する見識を深めるとともに人的交流の拡大を図った。

③ 見学会

川崎鋼管株式会社（神奈川県伊勢原市）において、鋼管製造現場の見学及び講演「鋼管の製法と鋼管を取り巻く環境」を実施した。

④ その他

Pe-CPD収録によるWEB登録2件、WEB会議システムを利用した講演（WEB配信）2件を実施した。また、平成29年10月第44回技術士全国大会（山口）に併せて統括本部応用理学部会及び中国本部応用理学部会による共催講演会を開催するため、当部会内に準備小委員会を立ちあげ2月から活動を開始した。

17) 生物工学部会

① 年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

幹事会は8月を除き毎月1回（年11回）開催し、講演会、見学会、合格者顔合わせ会など部会運営に関わる協議を行った。10月の例会を年次大会と位置づけ、農業・森林・水産・繊維4部会の後援を得て次世代農林水産業における技術士の役割をテーマとした講演会を開催した（WEB会議システムを利用して中国本部に配信）。平成29年3月には日本農芸化学会の会期に合わせて「生物工学部門全国交流会（京都）」を開催した。また北海道在住の会員による「北海道会」の会合を札幌で3回開催した。

② 講演会

講演会を6回開催した。例年6月に行っている会員の業績発表会の演題数は口頭発表が25（特別講演1題、一般15題、ショート・トーク9題）、誌上発表が3であった。平成29年2月には近畿本部の会員を中心とした講演会を神戸で開催した。

③ 見学会

例年7月に見学会（研修旅行）を関西・西日本地区の会員との交流を兼ねた恒例行事として実施している。今回は鳥取県米子市にある医工連携の諸施設（とっとりバイオフロンティア、鳥取大学医学部、株式会社テムザック技術研究所）を見学した。

④ その他

- ・第一次試験合格者顔合わせ会を東京、神戸、札幌で開催した。
- ・外部への広報活動として、日本生物工学会（9月）、日本農芸化学会（平成29年3月）の各学会会場において日本技術士会及び当部会の活動を紹介するチラシの配布を行った。
- ・日本農芸化学会（前記）のJABEEランチョンシンポジウムにおいて当部会の会員1名が技術士の活動と試験制度を紹介する講演を行った。

18) 環境部会

平成 28 年度の環境部会の活動は、例年どおり以下の四区分で行事を企画した。

- ・ 基幹行事：年会、技術交流会、忘年会、歓迎会等、開催月を決めて実施する年間必須行事
- ・ 定例行事：上記以外に幹事の企画提案に基づいて実施する講演会、見学会等の月次定例会
- ・ 共催行事：技術士会の他の部会・地域本部、或は学協会の主催する講演会等を共催
- ・ 運営会議：四半期ごとに開催する行事内容の企画を中心とした幹事会

① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

5 月に年会を開催し、年間の活動計画について協議した。その決定に基づいて具体的な活動内容を企画するため、部会幹事による 3 回の運営会議を開催し、行事予定並びに部会運営に関する懸案事項について検討を行った。また、常設・実行あわせて 10 の委員会に幹事が委員として参画し、運営会議において状況報告を行うことで情報を共有した。

② 講演会

月次定例行事の一環として、計 8 回の講演会（毎回 15～30 名程度が出席）を開催した。環境問題に関する国内外の動向について環境省・自治体等から講師を招いて実施したほか、大学・研究機関の研究者等による講演をはじめとして、部会メンバーの研究成果報告に至るまで多彩な内容で実施した。

③ 見学会

見学会は、水・環境インフラに関する技術・政策を海外に発信する横浜市の水・環境ソリューションハブ、フォッサマグナが露出したミニ・グランドキャニオン、省エネルギーやピオトープの取組が進んでいるビール工場、水族館における地球温暖化対策、を対象に実施した。

④ その他

8 月及び 12 月には、基幹行事として技術情報交流会と忘年会をそれぞれ開催した。さらに新規合格者向けの活動として、1 月に修習技術者支援委員会主催の一次合格者ガイダンスでポスター展示・部会紹介を行った。4 月には技術士試験一次合格者・二次合格者の合同歓迎会を開催する。

また、11 月にはサイエンスアゴラ 2016 で（一社）生物多様性保全協会の展示に協賛した「生物多様性と遺伝子攪乱」が、「第 1 回 J S T 賞」を受賞した。

19) 原子力・放射線部会

原子力・放射線部会では、創立 10 周年に取りまとめた 10 年計画に沿って、「3.11 事故の反省・教訓を風化させない働きかけ、安全文化醸成に資する活動」、「技術士認知度向上及び技術士数増に向けた活動」、「部会員の技術士活動の支援」、「広報活動」を平成 28 年度も展開した。

① 年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

- ・ 全体会議を 6 月に 1 回開催し、部会内体制の見直し、戦略的情報発信等について活動方針を確認した。幹事会を 7 回開催し、方針に沿った具体的活動の進め方等について議論した。

② 講演会

原子力・放射線部門の技術士として学ぶべき項目を考慮し、福島事故、原子力安全、耐震設計等に係るテーマを選定して、特別講演会 1 回、例会講演会 5 回を開催した。

③ 見学会

- ・ 東京電力福島第一原子力発電所（平成 28 年 5 月）
廃炉への取組み状況等を確認するため、福島第一原子力発電所の見学会を実施した（防

災支援委員会、東北本部共催)。

- ・ 楢葉遠隔技術開発センター (平成 29 年 1 月)
福島第一原子力発電所の廃炉に係る遠隔技術開発の拠点として建設された、楢葉遠隔技術開発センターの見学会を実施した (茨城県支部、防災支援委員会他との共催)。

④ その他

- ・ 技術士制度の認知度を高めるため、原子力放射線部門を紹介するためのポスター兼パンフレットを独自に整備した。本資料は技術士会内の合格者歓迎会や修習ガイダンス (2/4)、以下に示す大学や原子力学会で活用した。
- ・ 技術士制度の理工系学生への認知度向上と受験奨励のために大学のオリエンテーションの機会を調性して頂き、福井大学、京都大学、東京大学で説明会を実施した。来年度はさらに名古屋大学、近畿大学等でも実施する予定である。
- ・ 日本原子力学会 (以下、「原子力学会」という) の年会 (3/27-29) で技術士制度の説明のためのポスター展示を実施した。また、原子力学会主催の技術士制度・試験講習会への講師の派遣、原子力学会の HP 内の「原子力・放射線部門」技術士情報ページの運営への協力等、受験者拡大に努めた。
- ・ 各企業や組織ごとの技術士の認知度向上と受験奨励の取組を部会報の連載企画として紹介している。
- ・ 地方の技術士の活動を部会活動への積極的参加を促すために設けた部会独自の S 幹事制度の運用を継続した。部会員のニーズに応じた企画検討等への参画を得ている。
- ・ 安全文化、福島事故といったテーマを設定して部会報を編集し 6 月と 12 月に発行した。
- ・ 毎年例会で実施していた安全、倫理に関する話題について、自由闊達な議論を行う場として「安全文化フォーラムディスカッション」を組織し、3 回開催し、安全文化醸成に努めた。
- ・ 福島事故、放射線に関する正しい知識の普及のため、原子力学会が進めている学校教科書のレビュー活動に協力した。
- ・ CPD 中央講座の企画として福島事故の影響を受けたオフサイトの問題を取り上げることを提案し、第 138 回技術士 CPD 中央講座『東京電力福島第一原子力発電所の事故から 5 年、福島の復興を考える-知の統合に向けた専門家の役割-』及び第 70 回技術士 CPD ミニ講座『福島の復興の 5 年間で振り返って-除染の進展と放射線リスクコミュニケーション』の企画、運営に参画した。

月刊 PE に「福島第一原発事故の影響と現状、これから」のシリーズ掲載を行った。

(4) 地域本部及び地域本部管轄下の県支部の活動

本会の重要施策について円滑な実施を図ると共に、地域本部相互の連絡協調及び地域本部活動の活性化に資するため、地域本部長会議を 4 回開催した。地域本部長会議の開催状況及び審議事項等、各地域本部等での総会等の会合の回数、地域本部等における主な講演会等及び見学会は付属明細書を参照。

1) 北海道本部

下記の通り委員会等の活動を行ったほか、北海道本部創立 50 周年記念大会、地域産学官と技術士との合同セミナーを開催した。

① 地域本部における年次大会・役員会・委員会活動

- ・ 平成 28 年 6 月 8 日 (水) に年次大会 (参加者 201 名) と 50 周年記念大会 (参加者 247 名) を開催した。
- ・ 本部長を含め 30 名で構成される役員による本部役員会を 4 回開催した。

- ・地域委員会（技術士試験、総務、事業、広報、社会活動、地方、防災、青年技術士交流、倫理）を計 87 回、創立 50 周年記念大会実行委員会を 1 回開催した。
- ・各委員会等において研修会・見学会の開催等の CPD 行事（69 回）を中心に活動した。

② 行事

- ・第 36 回地域産学官と技術士との合同セミナーを開催した。
- ・統括本部の各委員会・部会主催による講演会等について WEB 中継を行った。
- ・「技術士が考える“生産性革命”」をテーマに第 15 回技術フォーラムを開催した。
- ・第一次試験合格者祝賀会（修習ガイダンスを含む）および第二次試験合格者祝賀会を開催した。

③ その他

- ・技術士第一次・第二次試験の実施を支援した。
- ・連携・協力協定を締結している国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所との連携により、科学展等への出展支援を行った。
- ・連携・協力協定を締結している北海道 4 工業高等専門学校との連携により、旭川工業高等専門学校にて倫理に関する共同授業を行った。
- ・技術士の社会認知向上・理科系教育現場における支援事業の試行として、JABEE 認定校 3 校、認定外大学 1 校、工業高等学校 1 校にて講義を行った。
- ・北海道本部会報「コンサルタンツ北海道」を 3 回発行した。

2) 東北本部

東日本大震災の発生から 6 年目を迎え、防災支援委員会と合同で、東北（岩手・宮城・福島）復興の現状と未来について考える「震災 5 周年公開シンポジウム」を開催した。また、日本初の国際プロジェクトである「国際リニアコライダ（ILC）」の実現に向けて支援活動を行った。

青森県、秋田県、岩手県、宮城県、山形県、福島県の各県支部においては、地域の特徴を生かした活動の活発化と会員へのサービス向上に努めた。このうち宮城県支部では宮城県と「大規模災害時における協定」を締結したほか、青森県支部は八戸工業大学と連携協力に関する協定を締結した。

① 地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・7 月 7 日に 62 名が出席して年次大会を開催した。
- ・本部長を含め 30 名で構成される地域本部幹事による役員会を 4 回開催した。
- ・政策事業、広報、CPD、防災、青年技術士交流、倫理研究、ITS 研究の 7 委員会では、それぞれ年 2～5 回の委員会を開催した。

② 行事

- ・東北本部及び建設部会をはじめとする 6 専門部会及び 7 委員会が、研修会・見学会等の CPD 行事を 31 回開催した。
- ・10 月 6 日に「ふくしまの未来を考える」をテーマとして、「地域産学官と技術士との合同セミナー（福島）」を開催し、122 名が参加した。
- ・10 月 25 日に「地域交流による産業活性化と技術士の役割」をテーマとして「北東 3 地域本部技術士交流会」を開催し、北海道本部、北陸本部からの参加者も含めて 70 名が参加した。
- ・6 月 10 日に、復興の現状と未来について意見交換を行う目的で、「東日本大震災 5 周年シンポジウム」を開催し、全国から 300 名以上の参加者があった。
- ・技術士第一次試験合格者及び JABEE 課程修了者に対する修習ガイダンスを行った。

- ・技術士第二次試験及び第一次試験合格者祝賀会を開催した。

③ その他

- ・技術士第一次試験及び第二次試験の宮城会場における実施を支援した。
- ・東北本部会報「技術士東北ーガイヤパラダイムー」を8月と1月の2回発行した。
- ・宮城県支部と宮城県との間で、自治体が管理する土木施設の被災箇所に関し、被害の拡大の防止と被害施設の早期復旧に期することを目的として「大規模災害時における被災箇所の復旧に係る助言に関する協定」を締結した。
- ・青森県支部と八戸工業大学との間で、技術情報、研究成果等を地域社会に還元することを目的に「連携・協力に関する協定」を締結した。
- ・東北本部の役員定数を30名から35名に改定した。

2)-1 東北本部 宮城県支部

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・平成28年7月21日に統括本部役員1名、東北本部役員1名を招いて、第5回宮城県支部年次大会を開催した。
- ・支部長を含め22名で構成される役員による支部役員会を5回開催した。
- ・総務企画委員会は、宮城県との防災協定を平成28年7月28日に締結した。
- ・広報委員会は、支部のホームページの運用及び支部の活動報告を「GAIA」へ掲載した。
- ・防災委員会、環境委員会、技術委員会、豊年技術士懇談会は、研修会、講習会等のCPD行事を企画実施した。

② 行事

- ・第5回宮城県支部年次大会時の基調講演の他、研修会、講演会を計6回開催した。

2)-2 東北本部 青森県支部

産学官との共同・連携を深める一環として、八戸工業大学と「連携・協力に関する協定書」を締結した。

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・7月9日青森県支部会員94名のうち、34名が出席して年次大会を開催した。
- ・支部長を含め17名で構成される役員による支部役員会を3回開催した。

② 行事

- ・CPD研修会3回(主催)、見学会を1回開催した。
- ・技術士第一次試験及び第二次試験合格者合同の合格祝賀会を開催した。

③ その他

- ・青森県支部会報を11月に発行した。

2)-3 東北本部 秋田県支部

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・7月9日に会員38名が出席して年次大会を開催した。
- ・支部役員会を3回開催した。
- ・広報委員会は支部の活動報告を「GAIA」へ投稿した。
- ・秋田工業高等専門学校からの技術士制度説明会の講師依頼について、総務委員会が対応。

② 行事

- ・CPD研修会を研修会4回開催した。
- ・技術士第一次試験及び第二次試験合格者合同の合格祝賀会を開催した。

③ その他

- ・東日本大震災5周年公開シンポジウムに秋田県支部から7名の幹事が出席

2)-4 東北本部 福島県支部

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・6月22日に第5会福島県支部年次大会を開催した。
- ・支部役員会を5回開催した。(4/6、7/29、11/9、12/27、2/9)
- ・総務委員会2回、広報委員会2回、技術委員会4回開催した。
- ・技術委員会が研修会、見学会開催の活動を行った。

② 行事

- ・第36回地域産学官と技術士合同セミナー開催
- ・CPD研修会（見学会含む）を4回開催した。

③ その他

- ・技術士試験受験啓発活動として、関係機関・団体等へ受験申込書を配布した。
- ・支部会報「たくみ17号」を平成29年3月に発行予定

2)-5 東北本部 山形県支部

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・7月1日に61名が出席して年次大会を開催した。
- ・20名で構成される支部幹事による役員会を5回開催した。
- ・総務委員会は、年次大会・役員会を主管して開催した。
- ・企画広報委員会は、会報の発行とホームページを管理した。
- ・技術委員会は、研修会・見学会の開催等のCPD行事を企画実施した。

② 行事

- ・CPD研修会を研修会3回、現場見学会1回、技術者倫理ワークショップ1回開催した。

③ その他

- ・第36回地域産学官と技術士セミナーに本支部から2名参加した。
- ・5月28日～29日と9月3日に山形県主催の『1級土木管理技術検定試験受験準備講習会』（山形県支部後援）に講師4名を派遣した。
- ・7月23日～24日に鶴岡工業高等専門学校制御情報工学科の『実践的デザイン教育演習』に講師2名を派遣した。
- ・11月18日に山形県建設コンサルタント協会の『技術研修会』へ講師2名を派遣した。
- ・2月21日に山形県主催の『エキスパート育成研修』に講師2名を派遣した。
- ・山形県内の小中学校3校に出前授業を行った。

2)-6 東北本部 岩手県支部

岩手県支部では、次に示す方針により継続的に活動を展開している。

- ・技術士の品位の保持及び技術の向上
- ・地域密着による技術士業務の啓発、地域経済・産業の発展等への寄与

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・年次大会：平成28年6月24日(金)支部会員22名が参加して事業計画等を確認した。
- ・役員会：年間6回開催し、事業計画や技術士相互の連携強化等について協議した。

- ・委員会：総務、企画、技術、広報の各委員会では、活動に合わせた会議等を随時開催した。

②行事

- ・支部主催の講演会を3回、各研究会主催の現場研修会を4回、技術展示1回を開催した。

③その他

- ・岩手県が主催するサイエンスシンポジウムに委員として参加すると共にブース展示を行い、小中学生を対象に科学の楽しさを伝え、父母には技術士の活動もPRした。
- ・建設分野の生産性向上に向け発足した協議会に構成員として参加した。
- ・統括本部主催の第7回社会活動事例発表会で、ドローンを利用した台風10号の災害復旧への貢献について発表した。

3) 北陸本部

北陸本部では、会員サービス向上はもとより、行動する日本技術士会”として「社会に向けて情報発信」、「社会貢献活動」、「日本列島を襲う自然災害」に向けた取り組みなどの強化推進を進めました。

① 地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・年次大会は、平成28年7月2日に新潟市で開催。「技術士の交流と相互研鑽の場」として捉え、見学会の他、防災委員会・倫理委員会・青年技術士委員会の研究発表、特別講演を実施。
- ・地域本部の業務推進にあたっては、8委員会（総務・教育広報・事業・倫理・防災・試験・地域交流・青年技術士交流委員会）がすべてに参画対応する組織として執行した。
- ・役員会（幹事会）は、「事業執行と予算統制の中で地域本部の対応や運営について、事業計画及び、事業実施確認」等を議題として3回開催した。
- ・試験制度委員会は、平成28年度の地域の大学・高専等へ技術士試験制度の積極的広報を課題に実施進捗状況と今後の取組を議題に3回開催した。
- ・その他、教育広報委員会3回、青年技術士委員会5回、倫理委員会2回を開催した。

②行事

- ・講演会等は7回開催した。講演会は、新潟有資格者懇談会での特別講演会、年次大会での特別講演、防災講演会、CPD講演会、青年技術士委員会企画講演会、地域産官学と技術士合同セミナー、青年技術士委員会新潟県建設関連産業若手パワーアップ小委員会企画の講演会である。
- ・見学会は年次大会時と他学協会との共催で、合計4回実施した。

③その他

- ・統括本部で企画した講演会・研究会を11回WEB中継した。
- ・技術士第一次試験及び第二次試験の実施を支援した。
- ・地域からの要請に応じ、防災講演・倫理研修などに講師を10回派遣した。
- ・技術士制度・試験制度の広報に積極的に取り組み、地域の大学・行政機関等へ試験制度の説明を9回行った。
- ・国土交通省北陸地方整備局との意見交換会を1回開催した。
- ・新潟県技術士会との連携協定調印式を開催した。
 - ・北陸本部会報「ほくりくの技術士」を3回発行した。

3)-1 北陸本部 富山県支部

① 地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・7月23日に54名が出席し年次大会を開催した。
- ・役員による富山県支部役員会を4回開催した。

② 行事

- ・2月25日に103名が出席し第36回地域産学官と技術士合同セミナーを開催した。
- ・7月23日に第24回講演会、12月10日に第25回講演会を開催した。

③ その他

- ・1月19日に富山大学においてJABEE認定コース在学学生及び担当教員に対して技術士制度に関する説明会を開催した。
- ・2月10日に富山県土木部、農林水産部と日本技術士会北陸本部富山県支部が参加し意見交換会を開催した。

4) 中部本部

平成28年度は、前年までの事業展開の基本方針を踏まえ、中部本部傘下四県支部、委員会、部会の活性化など、積極的な事業展開を推し進めた。

① 年次大会・役員会・委員会活動

- ・第5回年次大会は7月23日(土)に開催した。出席者は69名。
 - ・本部長を含む38名で構成された中部本部役員会を6回開催した。
 - ・委員会は、倫理委員会8回、総務委員会12回、企画委員会10回、研修委員会7回、修習技術者支援委員会6回、青年技術士交流委員会10回、広報委員会3回、活用促進委員会6回、防災支援委員会4回、試験業務支援委員会3回開催。
 - 独立技術士小委員会、PL実践研究小委員会、理科支援小委員会は、各6回開催。
- 以上、計87回開催。

② 行事

- ・研修委員会が担当の例会は秋季・冬季・春季の3回開催。講師・テーマの選定は、各々、防災支援委員会、倫理委員会、研修委員会が担当。
- ・修習技術者支援委員会は、中部本部修習技術者研究業績発表会を開催。
- ・企画委員会は、技術士第一次・第二次試験の合同合格者祝賀会を開催。
- ・活用促進委員会は、「インターシップ事業」の実施結果報告会を5年継続して開催。
- ・以上を含め、委員会、部会による講演会は50回、見学会は3回開催した。

③ その他

- ・企画委員会は、弁理士会との合同セミナーを開催。
- ・倫理委員会は、テクノロジーカフェを12回開催。通算100回開催を超えた。また、倫理教育等は、岐阜大工学部、鈴鹿高専、大同大学等8つの大学・高専で実施した。
- ・理科支援小委員会は、理科実験授業研究会を4回開催。小・中学校での特別授業を26回実施。

4)-1 中部本部 愛知県支部

前年度に引き続き、公益社団法人日本技術士会中部本部愛知県支部としての組織と技術士の認知度を上げることに全力を尽くした。社会に開かれた技術士活動の見える化を心掛けて、活動を進めた。月1回の講演会の充実を図り、一般の方が聞きたい講演会活動を模索した。新組織で検討してきた成果を少しずつでも発揮できるように、役員・会員が一緒になって活動できる支部を目指し、平成28年度を「支部組織の構築の年」という位置づけで運営すると共に、講演会・発表会・見学会等を1カ月に1回の頻度で開催した。

① 支部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ・6月18日に年次大会を開催した。(参加者数:36名)
- ・支部長を含む19名で構成される役員による支部役員会を7回開催した。
- ・委員長を含む10名で構成される企画研修委員会を3回開催した。

- ・委員長を含む5名で構成される社会貢献委員会を4回開催した。
- ・委員長を含む9名で構成される総務広報委員会を6回開催した。

② 行事

- ・企画研修委員会による講演会を5回、並びに見学会を1回開催した。
- ・社会貢献委員会による講演会・発表会を6回開催した。

③ その他

- ・会員名簿、ホームページの整備・見直しを行った（会合4回）。
- ・食問題研究会で食に関わる問題の研究及び自己研鑽を11回実施した。
- ・企業活動研究会で、環境・品質・安全とISO国際規格など企業活動に関する諸問題の研究を11回実施した。
- ・わいがやフォーラムでは、地域・中小企業支援、技術者の技術テーマについて議論し、12回実施した。

4)-2 中部本部 岐阜県支部

公益社団法人として設立2年目の岐阜県支部は、前年度に引き続き、組織と技術士の認知度を上げることを目標に活動をしてきた。社会に開かれた技術士活動の見える化を心掛けて、幅広い視野からの講演会の企画・開催を行った。また、中部本部の「明るく、楽しく、役にたつ」のモットーに則り進めてきた。少しずつではあるが、若い会員の参加が増えてきている。

① 岐阜県支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・年次大会は、5月14日にワークプラザ岐阜において開催した。
- ・役員会は5回行った。また、各委員会を同時開催で実施した。
- ・総務委員会は役員会議案と財務会計対応を行った。
- ・企画委員会は講演会のCPD行事と交流会の企画運営を行った。
- ・研修委員会は中部本部関係の研修支援を行った。
- ・広報委員会は岐阜工業会への講演会参加の勧誘とホームページの管理を行った。
- ・活用促進委員会は県内の外部依頼対応を行った。
- ・社会貢献委員会は防災に関する意識の向上を図った。

② 行事

- ・講演会活動を年間6回行った。

③ その他

- ・岐阜県士業連絡協議会（3回）と岐阜県工業会（2回）の行事に参加した。

4)-3 中部本部 三重県支部

平成27年10月1日に発足したが、‘外部に開かれた技術士会活動’を目指し運営してきた中で新しいメンバーが着実に増えつつある。

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・6月25日に津市で年次大会を開催した。
- ・支部長を含め17名で構成される役員による支部役員会を4回開催した。
- ・企画研修委員会は、講演会、IT講座そして見学会等のCPD行事を開催した。
- ・社会貢献委員会は、サイエンスカフェ、防災講習等のCPD行事を開催した。
- ・広報委員会は、会報「技術士みえ」の発行、ホームページ管理を行った。
- ・総務委員会は会員動向調査、並びに財務会計対応を行った。
- ・活用促進委員会は外部依頼対応を行った。

② 行事

- ・企画研修委員会による講演会を4回、並びに見学会を2回開催した。

③ その他

- ・三重県への協業アプローチを行った。
- ・社会貢献委員会によるサイエンスカフェを6回開催した。
- ・会報「技術士みえ」を3回発行した。

4)-4 中部本部 静岡県支部

平成27年8月に発足した県支部2年目は新しい会員の参加者も増加し、例会・役員会を下記のように定例的に開催した。

① 年次大会（全体会合）・役員会

- ・年次大会は4月16日に56名が出席し開催した。
- ・支部長以下役員による支部役員会を5回開催した。

② 行事

- ・例会を5回開催した。

③ その他

- ・静岡県内の東部、中部、西部地域例会を各1回(合計3回)開催した。
- ・昨年度締結した牧之原市との「公共土木施設に係る技術助言に関する包括協定」に基づき本年度は研修会2回と技術助言を4回行った。
- ・静岡市との「災害時における市民への復興まちづくりの助言に関する協定」に基づき防災ワークショップを3回実施した。
- ・防災教室を1回、テクノロジーカフェを11回、小学校での理科授業を13回、防災ワークショップ、防災研修会を2回開催した。
- ・会報を4回発行した。

5) 近畿本部

地域社会に対する科学技術の普及と振興、並びに地域会員に対する継続研鑽の「場」の提供を、活動方針の主目的として以下の施策を実施した。

① 地域本部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ・近畿本部所属正会員(出席者93名)による28年度近畿本部年次大会を開催した(6月27日)。
- ・本部長以下24名の役員および特別顧問・参与による役員会を6回開催した。
- ・近畿本部の総務・企画委員会、会員拡大委員会、研修委員会、防災支援委員会、科学技術支援委員会、国際委員会、合格者祝賀委員会、倫理委員会、協賛団体強化委員会、試験業務支援委員会を、計24回、また幹部会議を1回(9月5日)開催した。
- ・兵庫県支部発足に伴い10月23日、神戸市産業振興センターにて設立記念行事を開催した。(出席者数100名)

② 行事

- ・「技術士業務研修会」を開催した。6月25日(参加者数22名)
- ・「合同部会<これからの新たなる価値づくりに向けて>」を大阪科学技術センターで開催した。12月10日(参加者数88名、内一般6名)
「第10回災害対策セミナー in 神戸シンポジウム<私たち市民は災害から被害を少なくするために日頃からどんな備えをするか>」を神戸市国際会議場で行った。1月24日(参加者数120名、内一般は65名)
- ・「技術士倫理研修会<個人の倫理から組織の倫理へ>」、2月11日(参加者数88名)

- ・技術士第一次試験合格者のための技術士活動の紹介と受験の奨め等の講演会・懇親会、および第二次試験合格者のための講演会、近畿本部部会・研究会等の展示「ポスターセッション」・懇親会による合格者祝賀会を開催した。
- ・近畿本部所属 9 部会による研修会・講演会・見学会等、CPD 提供活動を計 118 回開催した。

③ その他

- ・技術士第一次・第二次試験(大阪会場)を実施した。
- ・当部の広報誌「きんき」を年 6 回(隔月)発行した。
- JABEE 認定大学に対して「技術士および技術士制度説明会」を開催した。
- 大阪工業大学 3 月 2 日(聴講生 75 名)

5) -1 近畿本部 兵庫県支部

平成 28 年 7 月 12 日、近畿本部の支部としてはじめて設立された兵庫県支部は、1-支部長、3-副支部長、2-会計幹事を含む合計 20 名の幹事、および 1-近畿本部特別顧問、1-事務局長、4-事務局次長から成る 6 名、合わせて総計 26 名が、伊藤支部長の指導と福岡近畿本部特別顧問の支援のもと、結束注力し、平成 28 年 12 月末には、県支部としての形態と機能が整った。

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

年次大会は、県支部の設立記念大会を兼ね、平成 28 年 10 月 23 日（日）に県支部会員 69 名、近畿本部長様他 2 名を含む来賓 19 名のご出席のもと、成功裡に開催することができた。役員会は県支部長と近畿本部特別顧問および県支部役員・幹事出席のもと合計 6 回（この内、1 回は来る 3 月 12 日予定）開催した。委員会は県支部設立準備委員会や同推進委員会が加わったため合計 12 回に増えた。

③ 行事

CPD 研修会を合計 3 回開催した。この 3 回の研修会の内、見学会+説明講義が 1 回含まれる。

④ その他

兵庫県支部の広報誌「支部だより」の創刊号を平成 29 年 1 月 1 日発刊した。

6) 中国本部

① 地域本部における年次大会・役員会・委員会活動

- ・7 月 16 日(土)に会員 861 名のうち 64 名が出席して年次大会を開催した。
- ・本部長を含め 28 名で構成される本部役員会を 7 回開催した。(うち 2 回はメールによる会議)
- ・部会活動の活性化による会員拡大を目的に、8 部会では、年 1 回講演会を開催した。
- ・企画総務、事業、広報、試験、活用促進、防災、修習技術者支援の 7 委員会では、それぞれ年 1~2 回程度委員会を開催し、青年技術士交流委員会は 1 回/月の委員会(講演会を併催)を開催した。
- ・本部長、事務局長、事務局次長(企画総務委員長、事業委員長)および事務局員で構成された「事務局会議」を概ね月 1 回のペースで年 13 回開催した。

② 行事

- ・「第 22 回西日本技術士研究・業績発表年次大会」として『地方から考える「まち・ひと・しごと」～技術士の関わり～』をテーマに、(株)日本総合研究所主任研究員藻谷 浩介氏の基調講演をはじめ、テーマに沿った論文発表では、地域における様々な事例が紹介された。

- ・2月18日(土)に、技術士第一次試験合格者を集めて、祝賀会を開催した。(参加者 78名)
- ・委員会・部会がCPDのために開催した講演会は27回を数えた。また、見学会は4回開催し、延130名の参加を得た。
- ・会員サービスの地域格差是正を目的に、統括本部の委員会・部会・研究会が主催する講演会を積極的にWeb中継し、計38回の内2回は中国本部から配信した。
- ・社会貢献活動の一環として、広島県安芸太田町の小中学生を対象に理科教育を2回、(呉高専)にて第4回「びっくりワクワクサイエンスショー」を、青年技術士交流委員会は広島市内と尾道市内の特別支援学校で「ものづくり教室」を3回開催した。

③ その他

- ・技術士第一次・第二次試験の実施を支援した。
- ・中国本部会報を2回(9月、2月)発行した。

6)-1 中国本部 岡山県支部

基本施策「行動し発信し地域に展開する公益社団法人日本技術士会中国本部 岡山県支部」として、技術士の資質向上、社会貢献活動の推進、戦略的な情報発信および地域に密着した活動の展開により、会員サービスの充実と技術士の知名度向上を図り、会員拡大を早期に実現する。

① 支部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ・平成28年7月30日岡山県支部の会員40名が出席して年次大会を開始した。
- ・支部長を含め20名で構成されている支部役員会を5回開催した。
- ・事業委員会を2回、企画総務委員会1回、開催した。

② 行事

- ・CPD研修会を研修会4回、見学会3回開催した。
- ・技術士一次試験及び二次試験合格者合同の祝賀会を開催した。

③ その他

- ・津山工業高等専門学校に対して、キャリア教育支援(仕事と資格)の講演を6回開催した。

6)-2 中国本部 山口県支部

① 支部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ・1月21日、支部会員38名が出席して、支部設立総会を開催した。
- ・支部長を含め18名で構成される役員による支部役員会を4回開催した。
- ・企画総務委員会および事務局は、役員会に諮る議案の検討および会場の手配、規約の整備を行った。
- ・事業委員会は、事業計画の立案、設立総会の開催、CPD行事の支援を行った。
- ・修習技術者支援委員会は、修習技術者への修習セミナー(第一次試験合格者ガイダンス)を開催した。
- ・広報委員会は、広報活動の企画・実施、ホームページによる情報提供を行った。

② 行事

- ・CPD行事を2回(講演会1回、Skype中継研修1回)開催した。
- ・技術士第一次試験合格者祝賀会(合格者ガイダンス)を催した。

③ その他

- ・徳山工業高等専門学校に対して「倫理教育支援」を2回開催した。

6)-2 中国本部 鳥取県支部

鳥取県支部は、1月28日に設立式典を行い、本格的な活動を開始。活発な支部活動となるよう幹事が結束して運営を行った。

① 年次大会・役員会・委員会活動

- ・1月28日に鳥取県支部設立式典兼修習技術者セミナーを開催した。
- ・支部長を含め14名で構成される役員による支部役員会を3回開催した。

② 行事

- ・支部設立式典に続き、平成28年度技術士一次試験合格者ガイダンス（修習セミナー）として、鳥取大学榎見吉晴副学長による基調講演をCPDとして開催した。
- ・支部設立式典・基調講演に続く修習セミナーにおいて、第二次試験合格者体験発表を3名の合格者により行った。
- ・CPD行事として技術者倫理集中講座を11月に開催した。

③ その他

- ・支部設立記念式典兼修習セミナーで「(公社)日本技術士会の紹介」「平成29年度修習セミナー計画」を説明した。

7) 四国本部

四国本部ビジョンで掲げる“5つの事業方針”に基づき、四国らしい特色のある活動を目指し、各県技術士会及び中国本部とも緊密に連携を図りながら次の事業を実施した。

① 地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・6月22日に高松市で四国本部の正会員375名のうち、73名が出席して年次大会を開催した。
- ・本部長を含め25名の幹事で構成される役員会を4回開催した。
- ・総務（正副委員長会議）、事業、広報、修習技術者支援、防災、青年技術士交流、試験業務支援の7常設委員会では、それぞれ数回の委員会を開催した。
- ・各委員会が講演会・見学会の開催等のCPD行事を中心に活動を行うと共に、社会貢献活動にも積極的に取り組んだ。

② 行事

- ・CPDセミナー・公開講座及び修習技術者支援セミナー、防災講演会、青年技術士交流会を各県持ち回りで開催した。
- ・高松市で開催した防災講演会・見学会で地元自主防災組織との意見交換会を実施し、専門的なアドバイスを行った。
- ・平成27年度技術士第二次試験合格者祝賀会を四国4県の会場で開催した。
- ・平成28年度技術士第一次試験合格者祝賀会を高松市で開催した。

③ その他

- ・技術士試験（香川会場）の実施を支援した。
- ・JABEE認定課程教員・学生に対する「技術士制度説明会」を徳島大学工学部建設工学科、高知工業高等専門学校専攻科の2校及び西条市役所で開催した。
- ・四国本部会報を2回（第12号、第13号）発行した。
- ・香川県教育委員会が実施する学校防災アドバイザー派遣事業に協力した。
- ・香川高等専門学校との包括連携・協力に関する協定に基づき「学生のキャリア支援のための出前授業」を実施した。
- ・社会貢献活動の一環として、徳島大学及び香川大学等が主催する児童生徒向けの「科学体験フェスティバル」にブース（模型製作実験「消波ブロックをつくろう！」）出展した。

8) 九州本部

年次大会、役員会、委員会及び部会、九州全県（福岡県除く）の県支部で、それぞれ定例CPD活動、見学会等に取り組んだ。技術士倫理については研修委員会に小委員会を設けて専門的に取り組んだ。本年は、「地域産学官と技術士との合同セミナー」を開催する年にあたり「地方創生」をテーマにセミナーを開催した。

このほか、4月14日、16日の熊本地震に対応した「熊本地震復興支援会議」を設置し、現地調査や今後の方針について報告書を取りまとめた。

① 地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・年次大会を5月28日、40名の会員参加により開催した。大会では、国土地理院から最新の測地観測技術について記念講演を戴いた。地震発生前から企画しておりタイムリーであった。
- ・本部長を含め22名で構成される役員と6支部長が参加した合同役員会を2回（5月、11月、県支部長会議を1回（9月）開催、三役会議を2回（6月、1月）開催した。これに伴う事務局会議を8回開いた。
- ・広報・研修・論文審査・地域産業支援・防災・青年技術士交流、北九州地区支部支援、試験業務支援の8委員会及び倫理小委員会、みどり、建設、環境、ものづくりの4部会で会議を38回開催し、合わせて講演会28回・見学会5回（うち北九州地区支部支援委員会の講演会11回、見学会1回）を開催した。

（熊本地震復興支援会議の動き）

- ・4月14日、16日震度7の熊本地震に対応して九州本部に「熊本地震復興支援会議」を設置し、現地調査の実施や復興支援活動の方針を検討した。今後4分野で活動を継続する。熊本県支部でも復興支援委員会を設置し、県、市町村などへ支援を申し出、喫緊の要請に対応しており今後も継続する。これらの動きは報告書にまとめ関係機関に配布するとともにホームページに公開した。

② 行事

- ・10月22日、第36回地域産学官と技術士との合同セミナーを福岡で開催し、62名の参加を得た。テーマは「九州の地方創生」とし、産学官の立場から7名の講演と意見交換があった。
- ・論文審査委員会では各県支部からの論文発表の促進、機会拡大に向けて本年度は鹿児島県支部と共催し、3編の発表があった。今後その他県支部でも継続することとした。
- ・青年技術士交流委員会では、大学等への技術士試験制度広報活動として、依頼を受け、大分高専（41名）、九州産業大学（80名）、福岡大学（20名）の学生対象に説明会を開催した。また、安川電機においてロボットをテーマに、小中学生（20名）を対象とした夏休み自由研究教室を開いた。
- ・防災委員会では、熊本地震発生直後、22日～24日にかけて市内、益城町、南阿蘇村等の緊急調査を実施、4月28日の合同役員会に緊急報告し、本部に「復興支援会議」を設置し幅広く長期的に支援することとした。また、近畿本部の技術士とともに「阪神・淡路まちづくり支援機構」の被災者相談会に参加した。
- ・統括本部委員会、部会などのWEBシステムを用いた中継が頻繁になり、会議6回、講演（研修）会へ19回参加した。

③ その他

- ・地域産業支援委員会では、関係機関のセミナー出展、技術相談への問い合わせに対応した。
- ・技術士第一次試験（受験者数 1696名）及び第二次試験（受験者数（技術士 20部門 2127名、総監 325名））の福岡会場における実施を支援した。
- ・九州本部機関誌「技術士だより・九州」を四半期毎に発行した。
- ・ホームページの改訂後、月2回の更新が定着し行事案内のほか、熊本地震対応の復興支援会議の動きや現地調査結果、支援活動方針の報告書等を適時公開した。また、復興支援アドバイザーの公開を行った。

8)-1 九州本部 大分県支部

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

6月18日、大分市内ホルトホールで、役員会及び46名が参加して年次報告会を開催した。1月21日、大分市内 労働福祉会館で、役員会及び31名が参加して新年互礼会兼中間活動報告会を開催した。大分県支部の役員会を4月14日、6月18日、8月25日、12月3日、1月21日の5回開催した。

② 行事

6月4日、9月3日、12月17日に講演会3回を開催した。

10月14日に大分川ダム、白水堰堤ほかにおいて17名が参加して現地見学会を行った。

③ その他

10月22日に福岡市福岡商工会議所ビルで開催された平成28年度地域産学官と技術士との合同セミナーに、役員2名が参加した。

8)-2 九州本部 鹿児島県支部

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

5月28日に鹿児島市勤労者よかセンターで年次大会を開催した。

5月19日と12月15日に支部役員会を開催した。

業務企画委員会を4月14日に、研修委員会を6月16日に、防砂委員会を2月18日に開催した。

② 行事

5月28日に第1回CPDを、8月20日に第2回CPDを、11月12日に第3回CPDを2月18日に第4回CPDを開催した。

10月8日に現地見学会を鹿児島県技術士会と共催行事として開催した。

③ その他

倫理に関する講義のため、鹿児島大学農学部並びに第一工業大学に講師を派遣した。

8)-3 九州本部 宮崎県支部

① 県支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

・平成28年6月19日ホテルメリージュにおいて、県支部正会員73名のうち24名が出席して年次大会を開催した。

・支部長を含め10名で構成される役員による支部役員会を1回開催した。（6月17日）

② 行事

・研修会・見学会等のCPDを2回開催した。（9月3日、11月23日）

・技術士第二次試験合格者祝賀会を開催した。（6月19日）

③ その他

- ・平成 28 年度技術士第二次試験願書配布及び技術士制度等説明会を開催した。(4 月 2 日)
- ・平成 28 年度技術士第一次試験願書配布及び技術士制度等説明会を開催した。(6 月 12 日)

8)-4 九州本部 佐賀県支部

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・年次大会（日時；平成 28 年 5 月 28 日（土）12 時 30 分～13 時 30 分、場所；佐賀城本丸歴史館、参加者；30 名（内委任状 12 名）

・役員会

- 第一回；平成 28 年 5 月 24 日（役員 10 人中 8 人参加）於；(株)親和テクノ会議室
- 第二回；平成 28 年 5 月 26 日（役員 10 人中 4 人参加）於；(株)親和テクノ会議室
- 第三回；平成 28 年 8 月 2 日（役員 10 人中 8 人参加）於；(株)親和テクノ会議室
- 第四回；平成 28 年 10 月 25 日（役員 10 人中 6 人参加）於；(株)親和テクノ会議室
- 第五回；平成 29 年 2 月 21 日（役員 10 人中 10 人参加）於；(株)親和テクノ会議室

② 行事

- ・平成 28 年度第 1 回技術懇話会（平成 28 年 5 月 28 日（土）14 時 00 分～17 時 00 分、佐賀城本丸歴史館、懇話会(CPD 研修) 参加者；39 名
「佐賀県の“水防災意識社会再構築ビジョン”への取組」横尾秀憲氏（佐賀県県土整備部河川砂防課 課長）
「佐賀市平野部の浸水被害軽減に向けて」 江頭聖司氏（佐賀市上下水道局下水プロジェクト推進室下水道施設課 課長）
- ・平成 28 年度第 2 回技術懇話会（平成 28 年 11 月 26 日（土）14 時 00 分～17 時 00 分、；佐賀県宇宙科学館学習室、懇話会(CPD 研修) 参加者；34 名
「熊本地震調査報告」矢ヶ部秀美氏（公社）日本技術士会九州本部防災委員長
「佐賀県の地震被害想定について」嘉村 隆浩氏 佐賀県消防防災課防災企画担当係長

③ その他

・広報活動

- 建設新聞新春特集号投稿（平成 29 年 1 月 1 日）（公社）日本技術士会佐賀県支部支部長名：「技術士とは（技術士制度の発足の歴史から技術士の社会貢献の視点）」
- 平成 28 年度土木学会西部支部研究発表会（於：佐賀大学）広告掲載（平成 29 年 3 月 4 日）（公社）日本技術士会佐賀県支部支部長・副支部長名：「バナー」「活動理念」

8)-5 九州本部 熊本県支部

熊本県支部活動の目標・方針として下記の 4 本の柱を立てている。

- ・地域の課題解決を支援する。
- ・技術士を知ってもらう。
- ・技術士を育てる。
- ・技術士として研鑽を積む。

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・6 月 18 日熊本県支部設立式典に続き第 3 回年次大会を開催した。参加者は熊本県支部会員 80 名のうち 29 名であった。
- ・支部長を含めて 10 名で構成される役員による支部役員会を 7 回開催した。
- ・新エネルギー研究部会で本年度の調査・研究成果として「地域でのバイオマスエネルギー活用の動向」について調査報告書をまとめた。

② 行事

- ・支部会員が主体とした CPD を 2 回開催した。

- ・熊本大学工学部学生に対して、熊本県支部技術士7名によるキャリアデザインセミナーを各学科に分けて4日間開催した。

③ 熊本地震復興支援活動

- ・4月22日～24日 九州本部防災委員会と同行し現地調査
- ・6月10日～12日 南阿蘇村等への被災者相談会へ、近畿本部、九州本部の技術士と同行
- ・6月18日 平成28年度熊本県支部年次大会において、熊本地震について特別講演会（熊本大学名誉教授 北園芳人氏）開催、復興支援委員会を設置
- ・8月10日 熊本県土木部長と技術士会の復興支援について意見交換
- ・8月17日、阿蘇地域振興局、阿蘇市、南阿蘇村、西原村、18日上益城振興局、以後、山都町町長、甲佐町、22日熊本農政事務所、9/12 大津町、菊陽町、9/13 上益城振興局（再度）、甲佐町（再度）、嘉島町、益城町へ技術士会支援メニューの申し出を説明、配布
- ・8月23日 西原村 地滑り観測センサーの現地設置指導
- ・9月5日 熊本農政事務所でミカン園石積み復旧、水田復旧事例資料の指導提供
- ・9月21日 阿蘇市、阿蘇山頂に設置されている避難壕の鉄筋コンクリートの劣化調査。後日、鉄筋コンクリート構造体として健全とはいえないとの調査結果報告書として提出。
- ・10月17日 宇城地域振興局、美里町、宇城市、宇土市、熊本市へ技術士会支援メニューの申し出を説明、配布
- ・10月24～25日 阿蘇地域振興局 農林部 農地整備課(再度)からの要請により、農業用水パイプラインの被災状況を内視カメラで調査。
- ・10月27日 宇土市（再度）の要請により傾斜地住宅団地の地割れ等の被災箇所の技術対策及び地元説明の対応はどうしたらよいのかとの相談に対して、関係面積が広いため、発注業務の範囲としての対応を伝えた。
- ・11月9～11日 阿蘇地域振興局管内の前の水パイプラインの被災状況の調査が不完全であったため機材を改良し再度の調査を行い、被災箇所を特定し、報告した。
- ・11月29日 熊本県庁にて復興支援関係者へ九州本部で作成した平成28年熊本地震日本技術士会の現地調査及び復興に向けての支援活動（方針）報告書の説明を九州本部の役員と共に行った。
- ・11月30日 菊池地域振興局 農林部 農地整備課から調査依頼があり、菊池市旭志町の排水不良水田の調査を行った。現地は谷地田であり、被圧地下水の水脈が地震のため活性化した結果と判断した。
- ・12月6日 菊池市旭志町の排水不良水田対策を行った。①暗渠排水吸水管の目詰まり除去、②地表面から吸水管までの縦の水みちを導入し、排水効果を高めることを関係者へ伝えた。
- ・1月26日 阿蘇市黒川の農家から排水不良水田の対策の連絡があり、現地の調査を行ったところ菊池市旭志町の排水不良水田と同様な現象と判断し、対策を行うこととした。
- ・2月2日 阿蘇市黒川の地震による排水不良水田を菊池市と同様な対策を現地農家へ伝えた。

④ その他

- ・熊本県立大学において開催された資格説明会で、2月16日に「技術士の概要及び実務内容」を説明した。

8)-6 九州本部 長崎県支部

「会員の資質向上、異分野技術士の交流促進、技術系人材の育成等」を主な活動目標として、以下の活動を行った。

① 県支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・6月18日、支部会員119名のうち、37名（会員：35名、九州本部：1名、協賛会員：1名）が出席して年次大会を開催した。
- ・11名からなる幹事による幹事会を6回開催した。

② 行事

- ・研修会2回、見学会2回のCPD行事を4回開催した。

③ その他

- ・長崎大学 JABEE 認定プログラム第2回講義に講師を派遣した。

(5) 関東甲信地域の県支部の活動

本会の重要施策について円滑な実施を図ると共に、関東甲信地域における県支部相互の連絡協調及び県支部活動の活性化に資するため、支部長会議を開催した。各県支部での年次大会等の会合の回数、県支部における主な講演会等及び見学会は付属明細書を参照。

1) 神奈川県支部

神奈川県支部は「技術者倫理に基づき、資質向上のため継続研鑽に努め、地域社会に対する貢献を通して国民経済の発展に寄与する」ことを基本理念として活動に取り組んだ。

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・7月28日、69名が出席して年次大会を開催した。支部運営方針、重点活動計画・予算等を説明し、意見交換を行った。
- ・支部長を含め、24名の幹事で構成されている役員会を11回開催し、活動計画、主要行事の企画、予算収支状況等、支部運営の基本となる事項について審議した。
- ・総務委員会、研修委員会、社会委員会を各々11回、技術士活性化委員会12回、合計45回開催し企画・運営・意見交換を行った。
- ・平成29年1月24日に新年賀詞交歓会（85名が参加）を開催した。

② 行事

- ・神奈川県で開催される展示会（テクニカルショウヨコハマ2017及びテクノトランスファーinかわさき2016）に出展、出展者セミナーを開催し、本会及び技術士の知名度向上に寄与した。
- ・CPD関連講座を10回、見学会2回、地域産業活性化研究会in川崎を1回開催した。
- ・技術士第一次試験及び第二次試験の実施及び一次試験、二次試験合格者祝賀会を催した。

③ その他

- ・情報交流の会を5回開催し会員への情報を提供した。
- ・支部のHPへの行事案内掲示、同報メール情報発信を各々36回行った。
- ・青少年のための科学の祭典、青少年のためのロボフェスタ、第5回サイエンスカフェを開催した。
- ・プロのエンジニアを目指しませんか（東京都市大学）、技術士への道ガイダンスを開催し技術士制度を説明した。

2) 埼玉県支部

28年度は当支部が発足して5年目を迎えた。当初から地域委員会を設け東部、北部、西部を小委員会として中央のさいたま市近辺と同じように活発に活動できるように検討して

きた。

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・7月2日支部会員960名のうち、71名が出席して年次大会を開催した。
- ・支部長を含め24名で構成される役員による支部役員会を7回開催した。幹部会を2回開催した。
- ・総務企画委員会を12回、CPD委員会を12回、科学技術振興委員会は6回、産業支援委員会（幹部会含む）12回、経営革新会議6回、地域委員会（3小委員会）18回、開催した。

② 行事

- ・CPD講演会を祝賀会講演会も合わせて、講演会10回、見学会4回開催した。
 - ・技術士第一次試験及び第二次試験合格者合同の合格祝賀会を開催した。
- 講演会では会員960名のうち、合計464名が、非会員入れると540名参加したことになる。

③ その他

- ・広報誌「彩の国技術士」を4月と10月に発行した。
- ・技術士第一次試験及び第二次試験合格者合同の合格祝賀会を5月30日に開催した。
- ・理科実験教室を、埼玉県総合教育センターにて一般参加者124名（内児童120名）に対し行った。
- ・エネルギーと安全に関するJAEA見学会（14名）及び報告会(15名)を行った。
- ・平成28年8月6日：原子力発電環境整備機構(NUMO)主催セミナー参加：有志
- ・埼玉県立総合教育センターの日本技術士会展示コーナーへのパネル作成と展示
- ・公開理科教室の参加「野菜と染色」「黒インク分析」「割れないシャボン玉」等
- ・さいたまスーパーアリーナ等で催された展示会およびものづくり大学で行われた
- ・埼玉県北部産業交流会に参加し県支部活動のPRを行った。
- ・埼玉県信用金庫と共催の技術課題相談会を4回開催し、地域産業の振興に貢献した。

3) 長野県支部

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・7月9日長野県支部会員208名のうち、28名が出席して年次大会を開催した。
- ・支部長を含め15名で構成される役員による支部役員会を6回開催した。

② 行事

- ・CPD研修会を講演会5回（うち3回は見学会を含む。）開催した。
- ・なお、平成28年度の技術士試験合格者祝賀会については、平成29年4月に開催の予定である。

③ その他

- ・「地方自治体等の工事監査における工事技術調査に係る説明会」を平成28年5月に開催した。
- ・長野県支部会報を平成29年1月に発行した。

4) 山梨県支部

山梨県支部の活動方針

1. 地域密着型の積極的な技術士活動の促進による地域貢献
2. 環境・安全・防災・景観等、社会性の高い技術研究・支援活動の推進
3. 社会的ニーズに応え得る技術士の研鑽活動
4. 技術士の更なる知名度向上

5. 新技術開発や技術支援活動の組織化による技術士の事業領域拡大

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

平成 28 年 5 月 28 日に年次全体会合を開催し 事業実績・会計報告、27 年度事業計画等報告した。

- ・役員会は全 7 回開催し、年度計画と予算、各行事の実行計画と手配等を進めた。平成 28 年 5 月 28 日, 6 月 13 日, 7 月 30 日, 10 月 17 日, 12 月 10 日, 平成 29 年 1 月 30 日, 3 月 4 日,

② 行事

- ・山梨県産業技術支援交流会 2017 (10 月 17 日) : 県の主な部局、公的支援機関 20 名を招待して事例研究発表会を開催した。
- ・CPD としては講演会 4 回、会員 9 名による研究発表会 (15 分ゼミナール) 1 回、見学会 1 回、を開催した。

③ その他 主要な対外活動（会員以外や一般社会向け）

- ・工業系技術力向上対策事業連携推進委員会への委員派遣（委員長） 2 回
- ・甲府市地球温暖化対策地域協議会への参画（会長） 複数回
- ・平成 28 年 10 月 25 日 山梨県産業技術支援交流会 2017
- ・平成 28 年 11 月 10 日～12 日 山梨テクノ ICT メッセ 2017（山梨県最大の産業展）出展
- ・平成 29 年 2 月 1 日 支部報第 5 号発行
- ・山梨県環境保全審議会地球温暖化対策部会に委員を派遣 2 回

5) 千葉県支部

本支部は、千葉エリアに密着した活動を進め、技術士の知名度向上、経済社会の発展ならびに科学技術の向上に努めた。

① 年次大会・役員会・委員会活動

- ・7 月 18 日に千葉県支部会員 1,030 名のうち、61 名が出席して年次大会を開催した。
- ・役員会は 24 名で構成し、10 回開催した。また委員長・チームリーダー会議を、役員会の前に開催している。
- ・4 つの常設委員会は 1～2 か月に 1 回委員会を開催している。
- ・活動推進委員会の下部組織 6 つのチーム、「産学官連携チーム」「企業支援チーム」「技術相談チーム」「防災支援チーム」「科学技術・理科支援チーム」「技術者教育支援チーム」を設け活動している。

② 行事

- ・6 月 11 日、12 日「青少年のための科学の祭典 2016 千葉大会」に出展し、会員 10 名が技術士コーナーを設け、8 テーマ（新作 2 つ）の実験及び工作を行った。一部テーマは市立千葉高校生及び京葉工業高校生（今回初）との協働で実施。
- ・7 月 18 日開催の年次大会に特別講演会を「気象情報の変化とビジネス活用」のテーマで行なった。講師は、(株) ウェザーニューズ執行役員安部大介氏
- ・上記の縁で、9 月 22 日 (株) ウェザーニューズ実施の「チャレンジ SHIRASE 秋季イベント」に工作展示初参加
- ・高校科学教育支援を京葉工業高校（9 月 22 日）と市立千葉高校（9 月 27 日）に行った。
- ・10 月 8 日、9 日「千葉市科学フェスタ 2016」に、科学の祭典と同要領で展示参加
- ・11 月 25 日に「千葉エリア産学官連携オープンフォーラム 2016」（千葉大学）に出展し、支部活動推進内容の展示をし、企業等からの技術相談を受けた。

- ・28年12月4日コスモマンション松戸ステーションビューでの防災講演会実施
- ・12月13日県立長生高校の臨時講座として技術士2名が経験を踏まえた教育を行った。
- ・29年2月4日(土)「ふなばし市民活動フェア2017」に防災支援をテーマで「ようこそ市民活動ふれあい広場」に参加。防災・減災支援に関するパネル展示を行った。
- ・29年2月5日佐倉市ユーカリが丘地区連絡協議会との共催で防災講演会を行った
- ・29年3月8日(予定)県庁技術士会での講演：技術士会千葉県支部の活動状況紹介・「船橋市市民活動フェア2017」に防災支援をテーマで「ようこそ市民活動ふれあい広場」に参加。防災・減災支援に関するプレゼンテーション並びにパネル展示を行った。
- ・29年2月5日佐倉市ユーカリが丘地区連絡協議会との共催で防災講演会を行った

③ その他

- ・年2回会報を発行し、技術士試験合格者にも寄稿を依頼し会員拡大を図っている。
- ・企業技術相談コーナーを、千葉県産業振興センター東葛テクノプラザで毎週金曜日、千葉市産業振興財団で毎週木曜日、さらに支部事務所で月曜から金曜までの毎日、それぞれ開催している。
- ・中小企業支援活動として人材登録制度を平成25年度にスタートさせ平成28年3月現在114名の会員を登録し、企業や大学等外部からの人材推薦依頼要請に対応している。
- ・自治体等の委員に会員が就任し、事業推進に協力している。
- ・大学への特別講師を派遣している。
- ・産学官キャンペーンにおいて、各関係機関との連携を増強し、技術士活用促進を図っている。

6) 茨城県支部

① 支部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ・茨城県支部会員が参加して年次大会を開催した(6月26日)。また、支部役員会を毎月開催した。
- ・総務委員会では、支部役員会や年次大会の開催事務、支部会計等の事務局活動を行った。
- ・広報委員会では、行事案内、活動状況報告などを支部ホームページに掲載した。支部会報を作成しホームページに掲載した。また、ホームページの見直し・刷新を図った。
- ・業務・地域貢献委員会を中心に、茨城県商工労働観光部との意見交換会(4月11日)など、地域産業活動との連携を図った。
- ・研修委員会では、継続的にCPD行事を開催するとともに、新設した修習技術者支援小委員会で修習技術者交流会を開催するなど、修習技術者への支援を行った。
- ・県南委員会は、各委員会等と連携をとりながら県南地域密着形の活動を行った。県南地域の小学校、文教施設からの要請を受け、科学実験教室に講師を派遣した。

② 行事

- ・年次大会において「講演会・交流会」(6月26日)を行った。
- ・「新年講演会・交流会」(1月16日)を開催した。
- ・「技術士合格者祝賀会・講演会」(4月2日)を開催した。
- ・CPD行事を13回、見学会を2回開催した。
- ・修習技術者交流会を3回実施した。

③ その他

- ・地域貢献委員会を中心に、茨城県工業技術センター主催の「産学官合同成果発表会」(7月6日)及び「研究成果発表会・模擬スマート工場完成式典」(2月21日)へブース出展し、日本技術士会の紹介及び技術相談を実施した。

- ・理科教育支援小委員会、県南委員会を中心に「霞が浦環境科学センター夏祭り」(8月28日)、「青少年のための科学の祭典ひたちなか大会」(11月5日～6日)に出展した。また、茨城県生涯学習センターの「おもしろ理科先生派遣事業」に登録し、県内の小学校、図書館、科学館等からの要請による理科教育支援を行った。
- ・茨城県主催の「茨城県IoT推進ラボ」に登録するなど、IoTへの取組みを開始した。
- ・茨城大学工学部の要請で「技術士活動紹介」(12月9日)を行った。
- ・防災委員会作成の「地域減災作成ガイドブック」を用いて、常総市水害の被災地域自治会等が行う防災マップ作成の支援を行った。

7) 栃木県支部

“会員の顔の見える会”と“地域の人と文化と技術をつなぐ架け橋”をモットーに支部活動を行った。特に、会員のための講演会、研究会等を充実するとともに、中小企業のために産・官・学の連携に努めた。

① 年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ・6月4日年次大会(全体会合)を支部会員188名中28名、新合格者1名、協賛団体3名の出席で開催した。
- ・年次大会に併せて講演会、報告会を開催し参加者は34名であった。また、講演会等終了後、祝賀会及び新合格者歓迎会を開催した。参加者は新合格者3名を含め40名であった。
- ・支部長を含め15名で構成される役員会を10回開催した。
- ・各委員会では必要に応じて委員会を開催した。特に、国際委員会、環境支援小委員会では月ごとに例会を開催するなど、積極的な活動を行った。

② 行事

- ・企画・研修委員会では、7月、11月に協賛団体向けのCPD研修会、11月に中央大学工学部教授小林晃之氏を講師に「“人工血液”研究最前線」の科学技術講演会、12月に講演会・報告会・交流会、平成29年2月には技術士を志す方への情報提供講座を開催した。
- ・国際委員会では、毎月例会を開催するとともに、6月に第7次浙江省訪問団を派遣し、11月には浙江省科学技術訪日団一行を招聘した。10月2日～4日には第46回日韓技術士国際会議が日光市で開催され支部員等73名が参加した。併せて、当支部は運営委員会を組織し会議の円滑な運営に尽力し成功裏に導いた。
- ・環境支援小委員会では、環境問題への取り組みとして12月3、4日に「ECO テック&ライフとちぎ2016」へ参加し、パネルによる技術士会PRと低学年児童向け物作り教室を実施した。理科教育の一貫としてサイエンスカフェを開催(5月15日フェスタ my 宇都宮2016出展、9月11日エンジョイカガク出展(帝京大宇都宮キャンパス)、10月8日宮っこフェスタ出展、11月27日宇都宮市人づくりフォーラム)し、Mg電池ミニカー製作、コイルモーター製作などを体験させた。また、地域再生等を目的とした市貝町プロジェクトを展開し、多田羅沼の水質保全について議論した。

③ その他

- ・業務委員会では、宇都宮大学企業交流会に参加するほか、県産業振興センター創業希望者交流サロンの支援機関として積極的に支援した。平成27年度補正ものづくり支援事業への審査協力を5月、8月に実施した。8月には、文科省事業の栃木フードイノベーション事業の外部評価を実施した。9月には、銀行主催の中小企業マッチング会に出展し技術相談会を実施した。本年度の委託業務斡旋は3件であり低調であった。
 - ・広報委員会では、8月に会報第9号、1月に会報第10号を発行したほか、支部ホームページを更新・管理を行った。

8) 群馬県支部

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・7月22日に群馬県支部全体会合（出席者25名）を開催した。
- ・群馬県支部役員会を隔月で開催し、重要事項の審議を行った。
- ・総務委員会、企画研修委員会、広報委員会を必要に応じて役員会開催と同時に実施した。

② 行事

- ・一般にも公開しCPD講演会を3回、見学会及び相談会を各1回開催した。
- ・講演会は、7月22日（一般を含め34名が参加）、2月24日（一般を含め107名が参加）及び平成29年3月10日（一般を含め22名が参加）に開催した。
- ・工場見学会は平成28年11月25日（一般を含め30名が参加）に(株)原田・ガトーフエスタハラダ本社工場で実施した。

③ その他

- ・会報第8号を8月に、会報9号を1月に発行した。

以上